

---

## 4. 生活環境整備分科会

赤塚	朋子	塩田	大成	増田	博之
上田	由美子	武井	貴志	三宅	徹治
太田	光彦	藤本	信義		

## 生活環境整備分科会 提言構成

---

### 1) 提言の全体像

(1) 分科会の総括(提言に当たっての考え方)

(2) 本市の重点課題に関する認識

(3) 重点課題解決に向けた目標(重点目標)

(4) 施策・事業の柱

(5) 事業内容

(6) 評価指標

(7) 市民の役割

### 2) 施策体系・施策事業内容詳細

(1) 施策・事業体系

(2) 施策・事業内容

### 【参考】

重点課題・SWOT分析結果

---

## 1) 提言の全体像

## (1)分科会の総括(提言に当たっての基本的考え方)

---

### ア、提案内容について

当分科会では、[宇都宮を日本一住みやすい街にする] ことを目指し、それを導く5つの重点課題を選定しました。

そこからはあくまで施策、事業の「例」です。

しかし全て上記目標に向うべく、市民そして各種の専門家としての提案例です。

分からない部分は無理に提案をしていませんが、市民が思う、市のあるべき方向性を中心に提示させていただきました。

景観や市民参画についてはいち早く「条例化」が必要です。

それは具体的事業実行の為ではなく、行政市民協働にて具体的施策・事業の発案-検討-選択-戦略-実行-評価をスムーズに行う為に、です。

今はその土台を準備する時期と考えます。

## (1)分科会の総括(提言に当たっての基本的考え方)

### イ、宇都宮まちづくり市民会議について

当分科会参加メンバーのほぼ全員が、前回市民会議もしくは他協働組織に参加しています。

結論を言えば、前回今回市民会議共通して市民側・行政側双方共、協働レベル・態度含めどっちもどっちな結果になると言えそうです。

事実、片方だけではただ1つの施策・事業の検討をまとめることさえままなりません。つまり双方とも、得意・苦手分野がある程度ははっきりしたのではないのでしょうか。

今回も前半はノリノリでテーマ・重点課題の抽出から施策・事業提案を行っていたのですが、それらの提案が2007年度以降、どのような扱いになるのか？という疑問にぶつかり、足が止まってしまいました。

2008年発表の総合計画をより良いものにすること、そしてその内容が有効に実行される為にも、現在の市民会議メンバー、もしくは絞ったメンバー(多種の専門家)と行政の部会を含めたチームにて「施策協働のケーススタディ」を行う必要性をメンバー全員再確認しました。その上で次回市民会議が行われるのであれば、具体的内容を快く検討できるのではないのでしょうか。

メンバーは皆社会人として参加しています。提案したことを提案したまま放っておくことはしませんし、できません。

そして皆、「その筋」では専門家です。アイデア、知識、手法、技術、経験を持っています。

18ヶ月もの期間、熱意を持って参加した方々の「持ち物」を利用しない手はないのでは？

平成19年3月

生活環境整備分科会 会長 塩田 大成

(2)本市の重点課題に対する認識

## 宇都宮市の生活環境整備分野における重点課題

---



## (2)本市の重点課題に対する認識

### 宇都宮市の生活環境整備分野における重点課題

重点課題	背景・理由	やるべきこと
生活者・利用者の視点にたった公共交通ネットワークの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●LRT導入が先んじ、既存バスシステムなどの見直しがなされてない。</li> <li>●近年バスの本数は増えているが、乗客数は減少。またJR駅を基点としているため路線重複・乗換え・料金など非効率な部分が多い。</li> <li>●今後増大する高齢者の暮らしやすさだけでなく、彼等が社会資源として活躍できるためにもアクティビティの機会を保障しておく必要がある。</li> <li>●自転車都市・宇都宮ならではの特徴を生かした交通ネットワークづくりができないか。</li> </ul>	<p>まちづくり全体をみずえたビジョンのもと、乗用車・バス・LRT・自転車・歩行者などのすみわけと連携、また広い市域を濃淡をつけてカバーできる交通システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITを活用したリアルタイム乗換え案内（バス）</li> <li>・公共交通チケット統一システム</li> <li>・パークアンドライド（車＋公共交通、自転車＋公共交通）</li> <li>・コミュニティ単位のミニバス（コミュニティで運営）</li> <li>・宮環における循環バス</li> <li>・既存バス会社の調整。場合によっては市バスも検討。</li> <li>・歩・車・自・バスのすみわけの明確化</li> </ul>
住環境整備とコミュニティづくり（主にまちなか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちなかはマンションラッシュとなっているが、居住者が暮らしやすい生活基盤は保障されているか。コミュニティとのつながりも薄れているのではないか。</li> <li>●放置されたままの空き店舗、空き家、空き教室、空きオフィスを有効に活用したい。</li> <li>●市独特の資源やまちなかの魅力が十分に発信されてない。</li> </ul>	<p>街なかでのステキなライフスタイルを提案できるような基盤整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩ける範囲における生活基盤の充実整備。</li> <li>・街なかの資源（大谷石、ライブハウス、飲み屋街など）を活用した新たな街暮らし文化の創出。</li> <li>・上記の拠点となるようなコミュニティセンターや公営住宅供給（新築より既存ストックの活用）ミクストハウジング、コレクティブハウジング推進→若い建築家からのアイデア募集</li> </ul>
景観文化意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年夏、文藝春秋に掲載された「日本の醜い景観」ワースト1の汚名を返上したい。</li> <li>●すべての市民の誇りとして共有できるような心象景観を創造したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規制と規制緩和の使い分け</li> <li>・市民参加型の景観評価の機会を増やす。例：公共建造物はもちろん、民間開発のものでも特定エリアで一定以上の規模を有する場合などにコミットできるような検討・審査会をつくる。（まちづくり条例の制定による、市民の参加機会の保障）</li> <li>・景観文化意識醸成（出前講座の活用推進、学校教育との連携）</li> </ul>
環境施策の個人レベルへの浸透	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宇都宮市では家庭版ISO、学校版ISOなど先進的な取組みがみられる。これらの徹底周知をはかり、もっと広く個人レベルへ浸透させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭版ISOなどのブランド化。安易に外部委託せずそのブランド性と信頼性をより高めていく。</li> <li>・市民の義務としての認識を高める（教育サイドからの仕掛け）</li> </ul>
統括的にまちづくりを推進・評価する仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合計画を責任持って推進し達成状況などを評価するのは誰なのか？</li> <li>●これまで既に相当数のまちづくり提案・計画が存在していたはず。しかし、実現に至っているのはごくわずかなのはなぜなのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画書に、責任をもってその施策を推進する部署・連絡先を記載。達成目標（数値）の根拠の明確化。達成状況の定期的チェック。それについての市民を含んだ第三者評価の仕組みづくり。</li> <li>・行政や民間開発によるのまちづくり施策・事業を横断的に統括し推進していく組織・仕組みづくり。（権限・予算の保障）</li> </ul>

### (3)重点課題解決に向けた目標(重点目標)

## 重点課題に対応した5つの重点目標

### 5つの重点目標

【重点課題①】  
公共交通ネットワークの充実

①現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

【重点課題②】  
住環境・コミュニティの整備

②エリア毎の、ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

【重点課題③】  
景観意識の高揚

③景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する。

【重点課題④】  
環境施策の  
個人レベルへの浸透

④「めんどくさい」を軽減するのではなく、「それでもやる」理由・動機付けの仕掛けをする。

【重点課題⑤】  
市民参画システム  
をつくる

⑤施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る。

#### (4)5つの事業の柱(例)



①目的地の集約化(コンパクトシティ)を促す公共交通路線デザイン

②ストックを利用した都心居住の実践的推進

③景観形成建造物の認定

④家庭版ISOの認定比率の向上

⑤市民参画による施策評価の実施

## (5)事業内容

### ①目的地の集約化(コンパクトシティ)を促す公共交通路線デザイン

#### ①対象

- 市全域

#### ②目的

- 交通の効率化と将来に向けたシステム(方向性)づくり
- 居住地域と中心市街地が分かりやすく移動できる環境づくり

#### ③事業概要

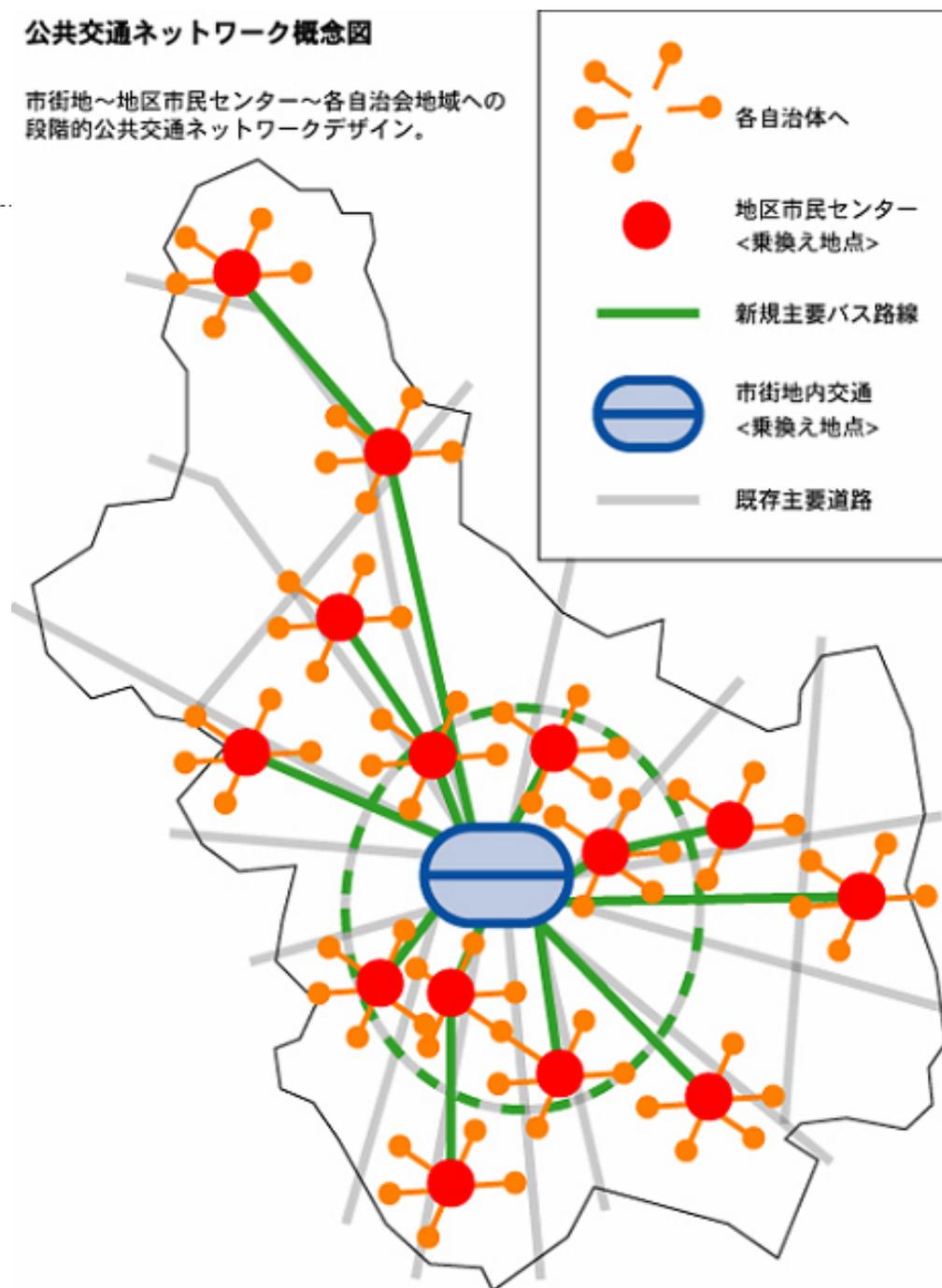
- 現目的地、都市計画、人口や世帯数予測を考慮したうえで、コンパクトシティデザインを作成する。
- 歩いて暮らせる生活圏を設定する。

#### ④事業主体

- 市

#### 公共交通ネットワーク概念図

市街地～地区市民センター～各自治会地域への段階的公共交通ネットワークデザイン。



## (5)事業内容

### ②ストックを利用した都心居住の実践的推進

---

#### ①対象

- 都心に居住したいと考える人、都心に居住する必要性のある人(高齢者)

#### ②目的

- 新築だけでなく、都心部「ストック」をリノベーション・コンバージョンにて「物件」化(住めるようにする)し、都心部ならではのライフスタイルを確立できるようにする。

#### ③事業概要(プロセス)

- 1、都心部生活エリアの設定 例→若年夫婦家賃補助の対象エリア
- 2、ストック情報の収集、整理(物件化されていないもの)
- 3、「ストック」の「物件」化助成 例→水廻り改修補助
- 4、情報発信
- 5、少数初期入居者の発生
- 6、初期入居者をライフスタイルモニターとして生活イメージの情報発信
- 7、2次入居者の発生

#### ④事業主体

- 市

## (5)事業内容

### ③景観形成建造物の認定

---

#### ①対象

- 市全域

#### ②目的

- 宇都宮市らしさを表現できるような美しい景観を保全・保存し、活用する
- そのための仕組みをつくる

#### ③事業概要

- 50年以上経過している建物、大谷石による建造物について、市で認定できる敷居の低い制度とする。
- そのために、徹底した現状調査を実施する。

#### ④事業主体

- 市

## (5)事業内容

### ④家庭版ISOの認定比率の向上

---

#### ①対象

- 市全域、家庭

#### ②目的

- 環境施策を個人レベルに浸透させるために、家庭単位での環境保全への動機付けを促進する

#### ③事業概要

- 家庭版ISOの認定比率の集計を発表する
- 地区センター(自治会)単位での拡大活動の推進 例→市から自治会単位へ「御褒美」を
- ISO普及委員の設置

#### ④事業主体

- 市

## (5)事業内容

### ⑤市民参画による施策評価の実施

---

#### ①対象

- 市民全体

#### ②目的

- 市の計画(総合計画)の進捗状況や、達成度を市民の視点で評価することにより、市民の目線で今後改善すべき点や重点的に取り組むべき点を明確にする

#### ③事業概要

- 市民参画にて評価すべき施策種の選定(市民参画にて)
- 市民参画による評価のシステムづくり

#### ④事業主体

- まちづくり統括機関

## (6)成果指標

### ①重点目標に対する成果指標について以下を提案する。

- 生活環境整備分科会の検討で出された重点目標別の指標案は以下の通りとなっている

重点目標	指標案
現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する	○「日常生活(通学・通院・食・住等)が地区市民センター単位で済ませられる」と感じる割合 ○中心街へ行く際の公共交通利用割合 ○市街地内交通の利便性(移動時間)
エリア毎の、ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。特に中心市街地に絞り、事業提案を進める	○高要介護度者の割合(低下を目指す) ○年齢階層バランス(均整のとれた年齢階層バランスへ) ○都心部空き床率
景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する	○「景観を気にしている」市民の割合
「めんどくさい」を軽減するのではなく、「それでもやる」理由・動機付けの仕掛けをする	○市民が環境に対して配慮した行動をとっている割合
施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る	○市民参画条例の設置(設置有無)

(6)成果指標

②基本施策(案)に対する成果指標について以下を提案する。

分野	基本施策	指標案
生活環境整備分野	日常生活の安心感を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通事故(人身事故)発生件数、自転車関連事故発生件数(いずれもモデル地区について)</li> <li>○自転車マナー向上についての市民の満足度</li> <li>○徒歩●分以内に歩行者専用道がない住区の割合</li> <li>○高齢者が(詐欺などの)被害に遭う件数</li> </ul>
	市民生活・都市活動の環境負荷を低減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民が環境に対して配慮した行動をとっている割合</li> <li>○【新規】学校版環境ISOについての副読本作成</li> <li>○上記副読本により授業実施をしている学校数</li> <li>○家庭版ISOの認知度、家庭版ISOに取り組んでいる割合</li> </ul>
	美しい水環境を保全・創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○古い住宅における合併浄化槽設置割合</li> <li>○BOD数値 河川の水質指標となる生物(魚類、水生昆虫など)の生息数(個々の河川について)</li> <li>○整備された多自然型護岸、景観護岸についての満足度</li> </ul>
	豊かな自然環境と憩いの空間を保全・創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民が環境に対して配慮した行動をとっている割合</li> <li>○一人当たりの住区基幹公園面積</li> <li>○徒歩●分以内に住区基幹公園がない割合</li> <li>○城址公園土塁内が公開施設(資料館、店舗など)として活用されていること</li> </ul>
	快適な住環境を創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「景観を気にしている」市民の割合</li> <li>○宇都宮を好きな理由が「景観・街並み」である割合、嫌いな理由が「景観・街並み」である割合</li> </ul>
	日常生活の衛生環境を向上する	
都市自治分野	市民本位のまちづくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民参画条例の設置(設置有無)</li> <li>○市長直属ディレクターズルームが設置されていること</li> <li>○市民の「市政参画情報」の認知割合</li> <li>○(公募委員などとして)参画した市民の評価・満足度</li> </ul>
都市基盤整備分野	機能的で魅力のある都市空間を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「日常生活(通学・通院・食・住等)が地区市民センター単位で済ませられる」と感じる割合</li> <li>○中心街へ行く際の公共交通利用割合</li> <li>○市街地内交通の利便性(移動時間)</li> <li>○【新規】大谷石バンクの設置と登録件数</li> <li>○住民発意の、景観地区における「(仮称)景観審議市民会議」の設置と開催数</li> <li>○中心市街地における空き家が「流通物件」になっている割合</li> </ul>

## (7)市民の役割

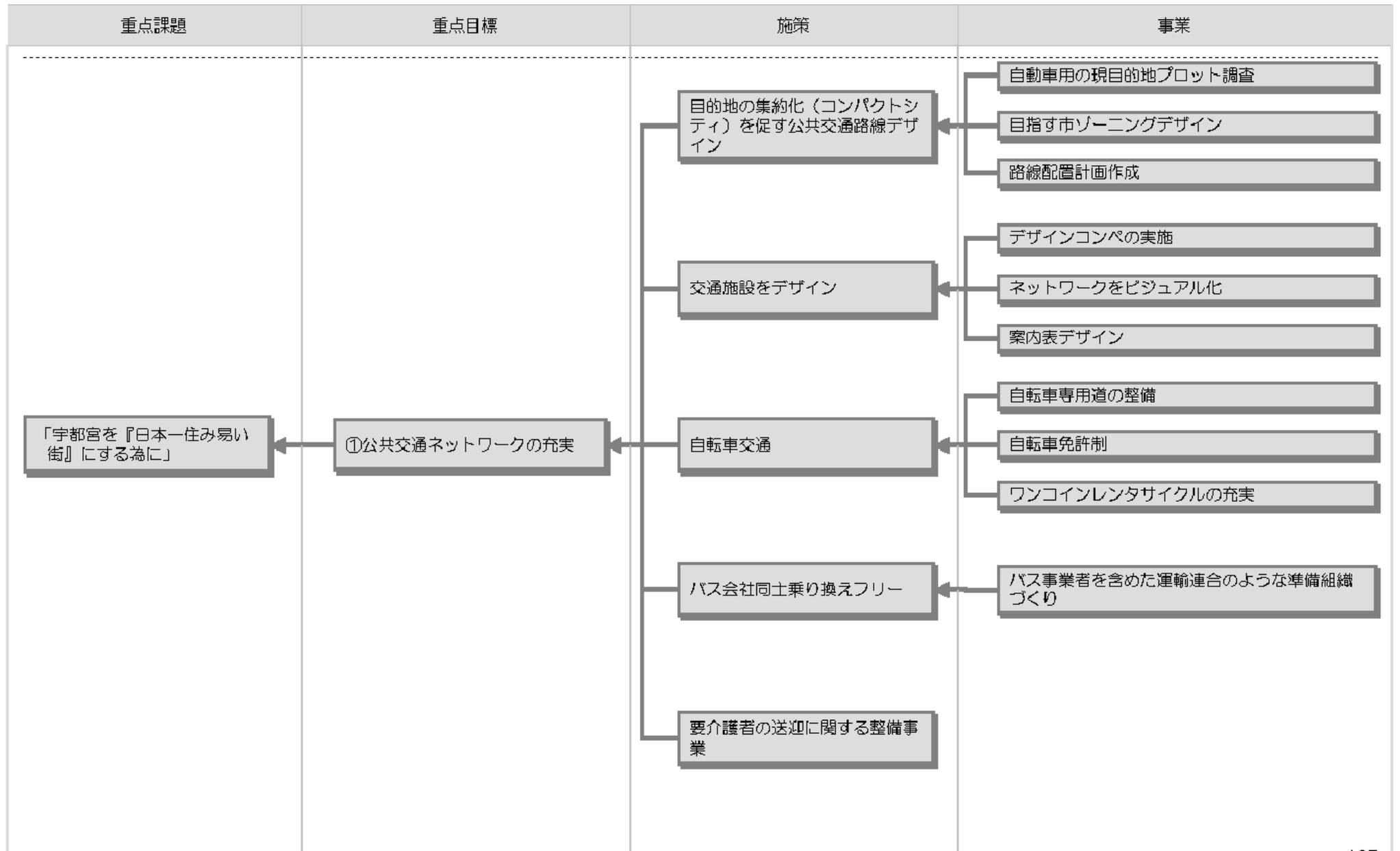
### 基本施策(案)における市民の役割について以下を提案する。

基本施策	市民の役割
日常生活の安心感を高める	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子供や高齢者の見守り活動への参画</li><li>・ 社会規範意識の改善</li></ul>
市民生活・都市活動の環境負荷を低減する	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 環境への意識を高め、配慮した行動をとる（資源物の分別やゴミの抑制、環境美化活動への参画等）</li></ul>
美しい水環境を保全・創出する	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 水辺アメニティ拠点整備へのNPO等の活動を通じた協働</li><li>・ 合併浄化槽の設置（←単独浄化槽）</li></ul>
豊かな自然環境と憩いの空間を保全・創出する	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自然環境維持活動への参画、自然環境保全意識の改善</li></ul>
快適な住環境を創出する	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 景観への意識を高め、配慮した行動をとる</li></ul>
日常生活の衛生環境を向上する	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 食品安全への意識向上</li></ul>
市民本位のまちづくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"><li>・ パブコメや市民公募委員会などへの積極的な参加</li><li>・ 企業内における社員の市民活動を応援する窓口づくり</li></ul>
機能的で魅力のある都市空間を形成する	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市街地への移動における公共交通の利用</li></ul>

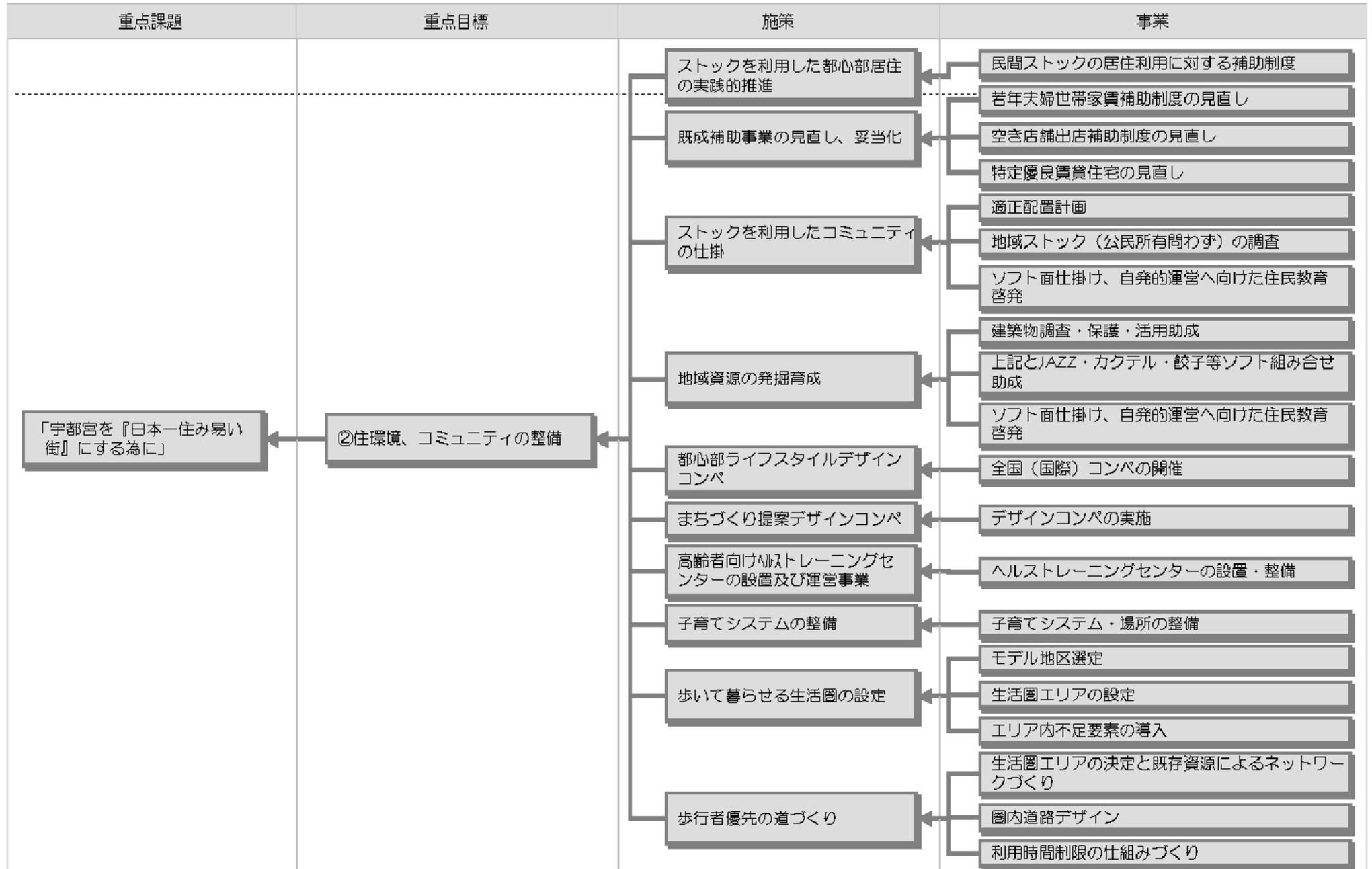
---

## 2)生活環境整備分科会 施策体系・施策事業内容詳細

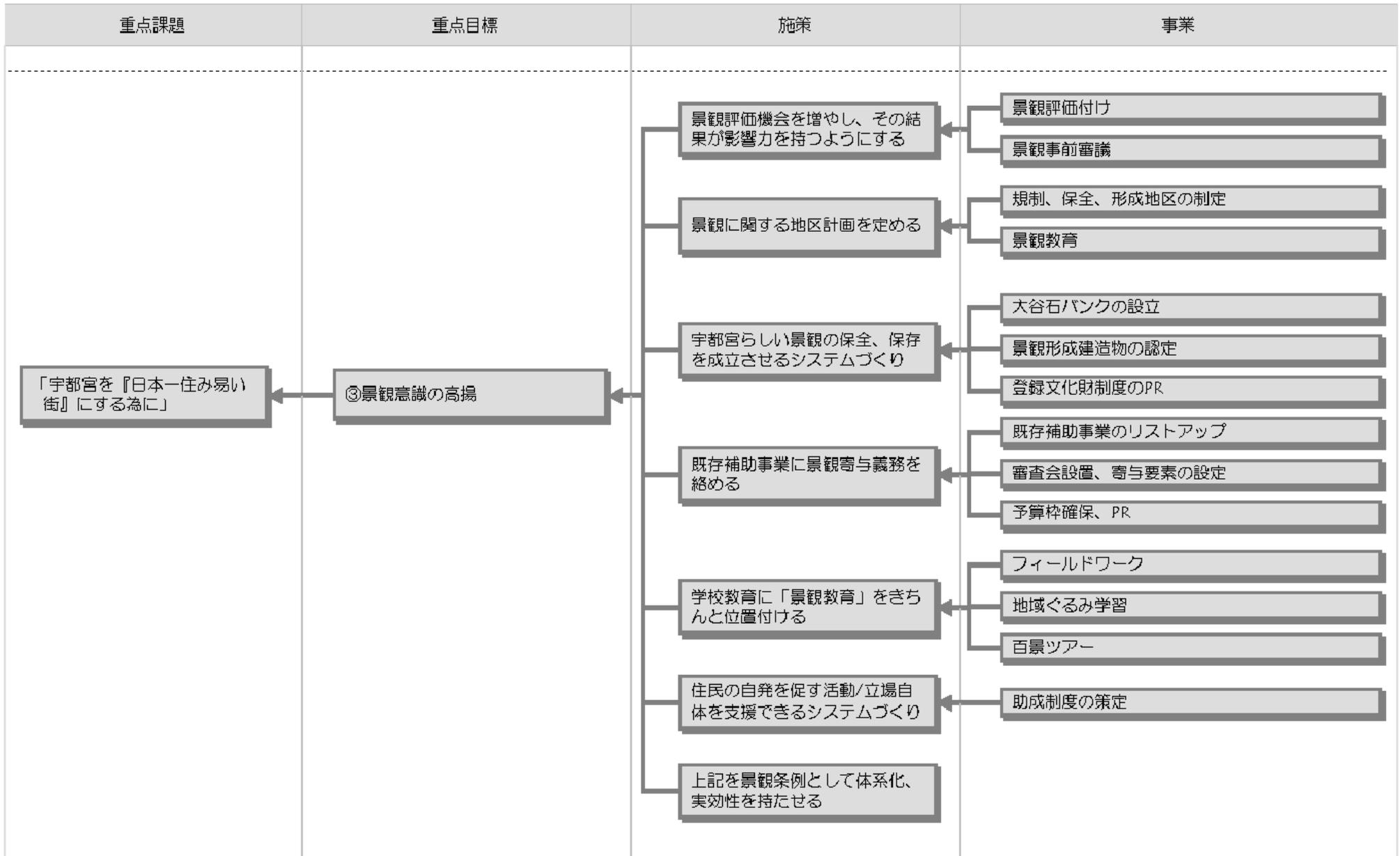
# (1) 施策体系



# (1) 施策体系



# (1) 施策体系



## (1) 施策体系



左図は

- 重点課題A:「公共交通ネットワークの充実」のみならず、
  - 重点課題B:「住環境・コミュニティの整備」
  - 重点課題C:「景観文化意識の高揚」
  - 重点課題D:「環境施策の個人レベルへの浸透」
  - 重点課題C:「市民参画システムをつくる」
- 全てに活用できる、コンパクトシティに向けた概念図です。

交通、地域自治、地域コミュニティ、税制、環境施策、高齢者、介護、保育、教育、景観、市民参画等々、全てに於いてここで示される構造・単位が有用と考えます。

全てはく宇都宮を日本一住みやすい・住みたい街にする為に。

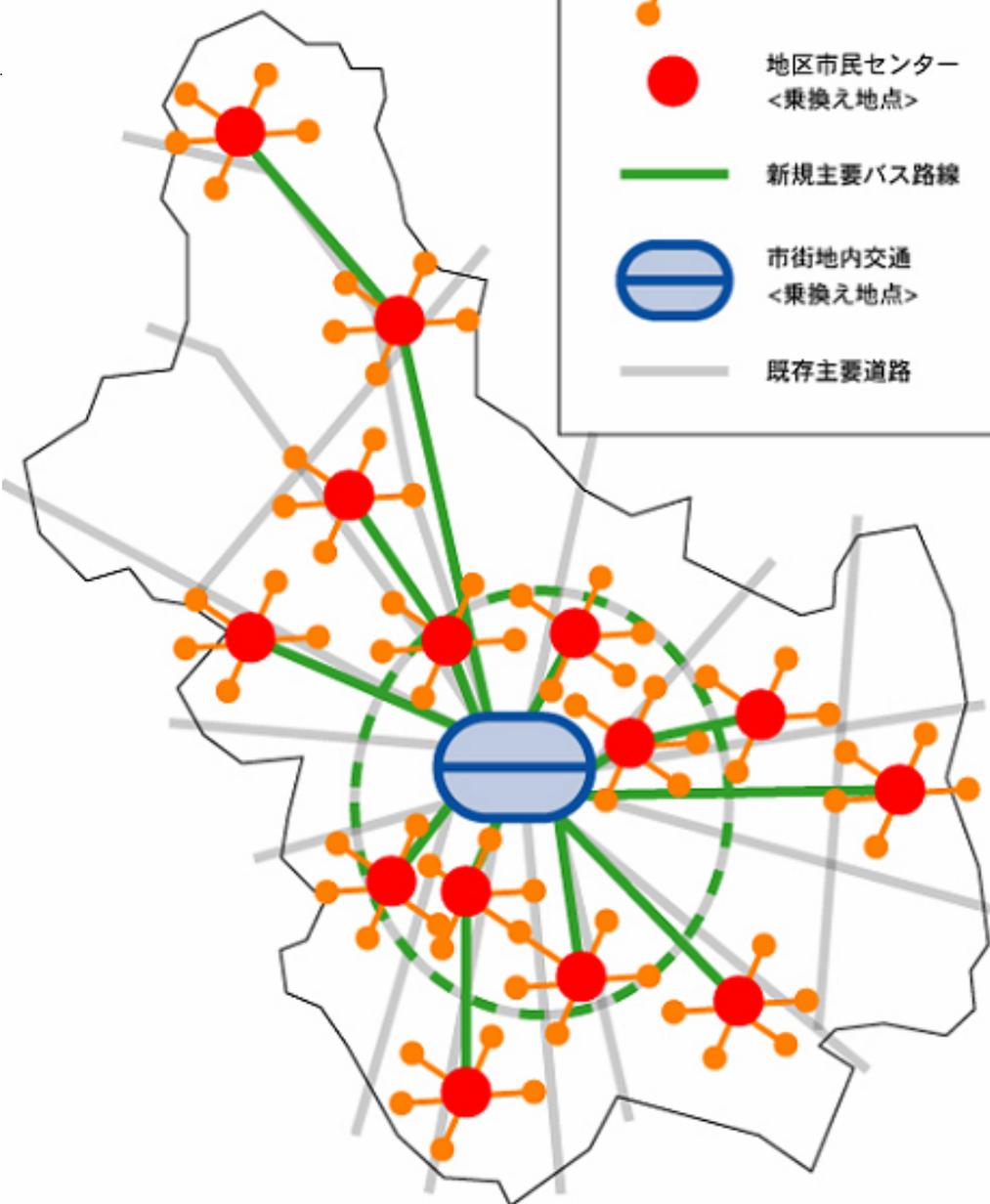
各々の地域が自発的にキャラクターを持ち、自立すること。その強いキャラクターの集合が「宇都宮」。行政は市民との協働の元(=市民にも責任を持たせ)、その為の動きをスムーズにする後押しをする存在です。

大きな目標の設定と、その為の仕組みづくり。  
「全ての声を聞く」が故の網羅的で中庸的計画ではなく、何十年後を予見しあるべき方向付けすることのできる行政としての確固たるランドデザイン。  
それをスムーズに後戻りなく確実に進める為に地域レベルに於いては市民を上手に利用すること・利用出来る仕組みを生み出すことが、いま正にすべきことと考えます。

左図はその為の方向性のいち例です。

## 公共交通ネットワーク概念図

市街地～地区市民センター～各自治会地域への段階的公共交通ネットワークデザイン。



## (2) 施策・事業内容 重点課題1. 公共交通ネットワークの充実

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

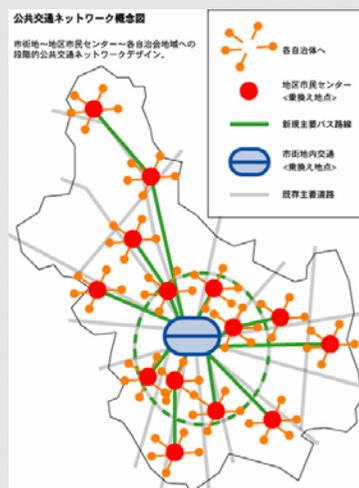
### 施策例①: 「目的地の集約化(コンパクトシティ)を促す公共交通路線デザイン」

既存目的地そして将来目指す市ゾーニングを絡み合わせた路線デザインを進める。

#### 施策の具体化へ実行を、「良い事業」として結実する為の「基準」が必要。

「基準」は明確、シンプルでかつ、交通用語(時間、価格、系統数等)でないものを。

例えば、高齢者がどのように生活を。どの範囲でどのようなライフスタイルのコンパクトシティ化を推進するか等々、交通システムデザイン過程での選択の基準とする。そして公開。これは、計画/実行に際しての問題(必ず発生する)に対して、明快な回答(信念)となる。事業施行過程で、行政/市民共通の評価基準となる。



#### <フロー>

- 1、市の目指す都市像の方向性検討
- 2、「基準」づくり
- 3、目指す交通ネットワークデザイン方向性検討
- 4、現状課題検討
- 5、事業挙げ
- 6、事業デザイン
- 7、実行(短-中-長期)
- 8、評価(6⇔8の習慣化)

→各施策例へ

事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
1、自家用車の現目的地プロット調査	市全域	市民の目的地を知る。	平日/休日、日中/朝夕各々について	市
2、目指す市ゾーニングデザイン	市全域	最終的目標を設定する。	都市計画図、人口/世帯数予測を考慮したコンパクトシティデザイン。 歩いて暮らせる生活圏の設定。	市
3、路線配置計画作成	市全域	実行する。強制力を持たせる。	1,2を基に作成。長期プランに立ち、徐々に計画路線にシフトしてゆく。	市、バス事業者

#### 課題

- ・計画策定そして実行委員会のメンバー構成。交通専門家だけでなく、市民参画。
- ・各交通事業者への理解/協力のしてもらい方と強制力を持たせ方。
- ・既存路線の変更に伴う既乗客へのケア。

## (2) 施策・事業内容 重点課題1. 公共交通ネットワークの充実

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

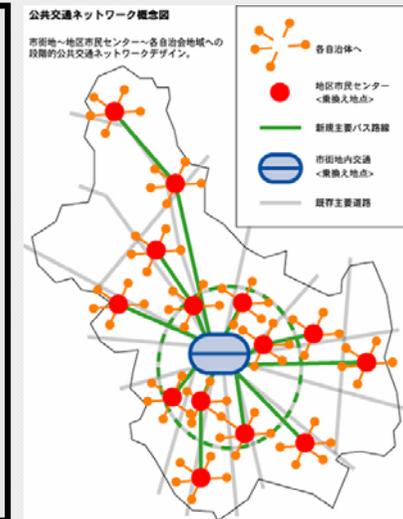
### 施策例②: 「交通施設をデザイン」

景観、利用者、近隣住民に寄与する“ステーション”のデザイン/機能向上

駅は乗降の場であるだけでなく、その地域の情報や人と出会う場でもある。  
宇都宮に於いてはバス停もこのような「地域の情報・コミュニティスペース」的な機能を持たせる必要があるだろう。  
全て新しく建てるのではなく、できるだけ各地域にあるストックを用いることで、懐にも地域にも優しい施設となる。

これから増大する高齢者にとって公共交通がより使いやすくなるよう、ステーションには「座る場所」と「屋根」は最低限必要。そのために、可能であれば付近に散在している既存ストック(空き家など)を活用し、待合場所+α的な機能を持たせる。  
これによりバスを待つ時間が快適に楽しく過ごせると同時に、井戸端会議ができるようなちょっとした溜まり場となる。  
屋根と座る場所を設けたバスステーションを広告塔として活用する。ステーションそのものを広告塔として有効利用し、得られた料金収入を維持管理費に充てる。景観的には十分配慮したものとし、取り扱う内容も制限する・(例) 風俗や消費者金融系などは禁止等

※「バスステーション管理」等々増大する高齢者のエネルギーを活用する事業を拡充する。  
(宇都宮市自治会210組織との連携・老連との連携(全国830万人参加)を検討)



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
デザインコンペの実施	県内外デザイナー	それが置かれる地域と密接な関係を持つバス停留所を目指す。景観意識にも影響する	地域ストック利用、休憩機能、広告、地域案内等を要項に含めた“ステーション”デザインを全国に公募する	市、バス事業者
ネットワークをビジュアル化	利用者	分かりやすく、かっこよく →利用率向上	目的地乗換等が分かり易いマップ作成	市、バス事業者
案内表デザイン	利用者	分かりやすく、かっこよく →利用率向上	バス会社でなく、時間/目的地が一目で分かる案内表デザイン作成	市、バス事業者

### 課題

- ・バス停の所有者、許認可の現状。 ・事業予算枠の確保。
- ・審査員の選定 ・ステーション維持管理

## (2) 施策・事業内容 重点課題1. 公共交通ネットワークの充実

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

### 施策例③: 「自転車交通」

自転車の街として、利用者に「権限」を与え「責任」を果たしてもらおう仕組みを作り、ある強制力を持たせる。

歩行者にとっても自動車にとっても、危険な自転車交通。特に自転車対歩行者の事故はこの10年間で4.6倍にも激増しているという。“危険“とはいえ宇都宮の自転車利用は多く、「自転車のまち」ともいえるのではないか。それに昨今の環境問題、健康志向などを考えるとクルマ依存社会から脱皮するための有効なひとつの手段である。(特にJR駅西側) それならば自転車を悪者扱いするのではなく、ある種の「権限」を与え、同時に「責任」を果たしてもらおうような仕組みを考えたい。

そもそも自転車は車道通行が基本だったが、クルマの増加に伴い1978年の道路交通法改正で「基本は車道だが、指定歩道ならば歩道走行可能」となった。欧州などはほとんどの国が自転車は車道かそれに隣接して設けられた自転車レーンを走行している。(確かに欧州へ旅行した際、歩道を気持ちよくのんびりと歩ける)。自転車は車道(専用レーン)をスムーズに走行し、歩行者は歩道を安全に歩けることは、今後進む超高齢社会においても必須条件である。同時に自転車は「車両」であることを再認識してもらおうことを含め、学習の機会を設ける。具体的には自転車専用レーンの整備と、自転車免許制の整備。

- 1、【自転車専用道路】これまでのような歩道走行ではなく車道の一車線を自転車に解放する。(作新学院～JR駅の区間を、時間を限定して)大通りの左右一車線を自転車に開放する日時(新学期初日)をつくり社会実験として実施。反響をみながらLRT導入にあわせて徐々に移行。
- 2、【自転車免許制】市内で自転車通学をする高校生は、必ず「講習」を受けることとし、修了者には「宇都宮自転車免許」を交付する。講習指導には、現役高校生(自転車通学)にも当たってもらい、指導を通じて自らのマナー向上につながることも期待。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
自転車専用道の整備	特にJR駅西市街地	上記	車線の開放	国、県、市
自転車免許制	市民(特に中高校生)	上記	講習、指導の義務化	市
ワンコインレンタサイクルの充実	特にJR駅西市街地	上記	サイクルステーションの設置	市、商工会

### 課題

- ・車線開放による渋滞・混乱の解決法
- ・免許関係の予算確保

## (2) 施策・事業内容 重点課題1. 公共交通ネットワークの充実

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

### 施策例⑤: 「バス会社同士の乗換えフリー」

LRT導入推進に際し、行政にてバスを含めた路線決定など全般をコントロールできるよう、「準公営」的な業態を目指す。

LRT導入は、バスなどの公共交通システム再編とセットで進められることが、成功のための絶対条件であるが、これまでのLRT導入に関する報告書では、そのことに関する具体的な記述はほとんどない。LRTについて市民が最も不安に感じているのは、既存バスを含めた全体の具体的な交通戦略が見えないことではないか。市内を走る3つのバス会社についても、現段階では時刻表がようやく統合されつつあるというレベルであり、これでは非常に心もとない。したがって現在のような既存事業者の「調整」ではなく行政などがもっと強いリーダーシップを発揮できるよう、導入推進の現段階より公的性格が強い第3セクターなどを設立し、バス路線を含めた全体の公共交通システムをコントロールした戦略が立てられるようにすべきである。

事業プロセス	対象	目的	事業概要	事業主体
1、バス事業者を含めた運輸連合のような準備組織づくり	行政、事業者、市民、学識経験者	上記	独禁法に触れないよう、特区申請のようなカタチで。行政主導で、事業者、市民団体などで構成)→5年後の第3セクター設立を目指す。	市
2、				
3、				

### 課題

・バス事業者の赤字補填。

(2) 施策・事業内容 重点課題1. 公共交通ネットワークの充実

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

施策例⑥:「要介護者の送迎に関する整備事業」  
当該者の送迎車両の運行についての整備を行う。

送迎のため各社で運行されている車両を包括介護支援センターを中心とした運行のスケジューリングを行う。  
要介護者はエンドレスで巡回される車両を自在にチョイス乗車し当該介護施設に送迎される。  
介護事業者がフリーに運行する車両を制御し車両数の軽減を図るとともに利便性の確保を図る。

事業プロセス	対象	目的	事業概要	事業主体
1、-	-	-	-	市
2、-	-	-	-	市
3、-	-	-	-	市

課題

・  
・

## (2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

### 施策例①: 「ストックを利用した都心部居住の実践的推進」

新築だけでなく、都心部「ストック」をリノベーション・コンバージョンにて「物件」化(住めるようにする)し、都心部ならではのライフスタイルを確立できるようにする。

戦災復興にて急速に、コントロールできずに壊しては造って出来てしまった宇都宮市街地が50年程経過し、1サイクルを終わろうとしている。  
今こそストック利用を本気で進めなくてはならないし、時代に求められている。  
宇都宮は、建築物として芸術文化的価値があるものが少ないからこそ住民が気兼ねなく自分の生活文化を育てることができる床がこの都心部は大量に抱えている。  
これを利用しない手はない。都心部独自のライフスタイルを確立してしまえば、そこから商業は自ずと成立するし、その商業はターゲットが明確な為、定着する。  
現在の都市は「住」からつくり直さなくてはならない段階にまで行ってしまったし、そこからきちんとつくられた都市は足元が揺るがない。まず「住めるようにする」こと。

- ・既存補助事業の見直し・妥当化
- ・都心部の用途変更申請に対する特別措置
- ・「まちなか居住再生ファンド」の活用  
床面積の1/2以上を住宅用途で、新築/既存改修問わず対象となる。特定目的会社が事業を行う形。
- ・高齢者コミュニティハウジング化することも可能  
自立生活のできる高齢者の為の都心部住居。最低限設備助成。近隣と繋がりながら活動的に住まう。

<フロー> (下線が行政による事業)

- 1、都心部生活エリアの設定
- 2、ストック情報の収集/整理
- 3、「ストック」の「物件」化助成
- 4、物件整備(公営住宅含む)
- 5、情報発信
- 5、少数初期入居者の発生
- 6、実生活イメージの情報発信
- 7、二次入居者の発生
- 8、二次物件の発生
- 9、商業の発生
- 10、スパイラル効果、自動的再建

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
民間ストックの居住利用に対する補助制度	都心に居住したいと考える人、都心に居住する必要性のある人(高齢者)	新築だけでなく、都心部「ストック」をリノベーション・コンバージョンにて「物件」化(住めるようにする)し、都心部ならではのライフスタイルを確立できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 都心部生活エリアの設定 例→若年夫婦家賃補助の対象エリア</li> <li>■ ストック情報の収集/整理(物件化されていないもの)</li> <li>■ 「ストック」の「物件」化助成 例→水廻り改修補助</li> <li>■ 物件整備 情報発信</li> </ul>	市

### 課題

- ・改修補助要素、%の基準設定。 ・ストック利用での生活イメージが貧しいので、提案/理解/認知への戦略が必要。新たな市場を創り出す。
- ・民間ストックを利用する為、事業採算性の検討が必要。場合によっては改修後数年の固定資産税減免等の措置が必要。初期は特に。入居者が現実に見えてくれば大丈夫。

(2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例②: 「既成補助事業の見直し、妥当化」  
既成補助事業の効果を長い目で再検討する

多様な居住環境を整備することで、都心部居住、商業の「定着」を促す。  
画一化でなく多様化を促す補助システムとして再整備する。  
都心部で出来る、都心部でしかできない生活を通して、これからの住人を育てる為に、何処に補助を当てるべきか、再考する。

事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
若年夫婦世帯家賃補助制度 の見直し	都心に居住したいと考える人	都心部への定住人口の増加	2-4年のアパ・マン住まいの「人」にでなく、20-40年住める「物件」を増やす補助に回す。	市
空き店舗出店補助制度 の見直し	都心に居住する必要性のある人 (例/高齢者)	同上	ストックのインフラ再整備へ予算を回す。	市
特定優良賃貸住宅 の見直し	都心部の土地建物保有管理者	同上	新築以外へも適用を図る	市

課題

・  
・

(2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例③: 「ストックを利用したコミュニティの仕掛け」  
「ストック」を「コミュニティスペース」へコンバージョン(用途転換)

コミュニティの規模による適正配置計画。

- 大 = 地区市民センター規模
- 中 = 小学校区規模
- 小 = 公民館規模
- 極小 = ゴミステーション規模

人を呼ぶもの(大)だけでなく、そこに住む住民の為のもの(中/小/極小)を。  
小/極小に関しては、屋外でもよい。

「交通ネットワークデザイン図」はここにも当てはまる。  
乗換え/交通規模の変化地点で、バス停兼のコミュニティスペース設置をする。

- ・特に小/極小コミュニティスペースは、地域民間ストック(空家/空きテナント/公園等)程度の規模利用でOK。
- ・茶飲み立ち話コミュニティのレベルを推進する。(散歩道ネットワーク)



事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
適正配置計画	市全域	上記	コミュニティの規模による大(地区市民センター)～中(小学校区規模)～小(公民館規模)～極小(ゴミステーション範囲)の配置計画。	市
地域ストック(公民所有問わず)の調査	市全域	上記	特に小～極小コミュニティ用空間の調査。空家・空きテナント等の利用も。	市
ソフト面仕掛、自発的運営へ向けた住民教育啓発	市全域	上記	-	市

課題  
.  
.

## (2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

### 施策例④: 「地域資源の発掘育成」

他には無い宇都宮ならではの場所、物、事、人の発掘、育成を進め、宇都宮の個性を確立する。

地方都市の生き残り、活性化の切り札として、その場所でなくては体験出来ない事柄に目を向け、発掘育成をする。大谷石建造物や空間と、JAZZ、カクテル等、宇都宮文化を組み合わせ、地域文化の発信を積極的にすすめる。また、それぞれの要素を組み合わせ活用しやすくする為の、条例整備、助成をおこなう。この土地独自の風景、建物、文化をすくいあげ、宇都宮のブランド力を向上。独自の風景、建物、文化を保護、活用しやすくする法的経済的環境を整える。

#### 1、大谷石

市内に点在する石蔵、塀など、大谷石のある独特な風景が存在する。

石積みの風景は日本には少なく、宇都宮市ならではの場所となる可能性がある。創造活動を触発する場をつくる素材として大谷石を評価する。

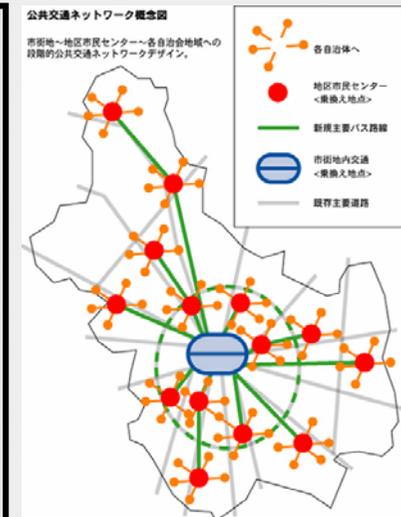
#### 2、JAZZ

JAZZスポット、MIYAJAZZ等のイベント、市民JAZZ講座等の存在により、底辺は

広がっている。JAZZセッションには、人の出会い、後継の育成、場の醸造など、街の独自性を生み出す重要な要素として位置づける。

#### 3、宇都宮市らしさの確立

大谷石の環境と文化・商業活動を組み合わせる事で、宇都宮でこそその体験を宇都宮らしさと位置づけ確立する。



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
建築物調査・保護・活用助成	大谷石建造物 築50年超建築物	この土地独自の風景・建物・文化をすくい上げ、宇都宮のブランド力の向上を目指す	建物とその周辺環境の保護・活用への助成と条例の整備	市
上記とJAZZ/カクテル/餃子等ソフト組合せ助成	市全域	同上	-	市
大谷石廃材リサイクルシステムの整備	市全域	同上	-	市

### 課題

- .
- .

(2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例⑤:「都心部ライフスタイルデザインコンペ」  
将来的に行政負担を軽減する為の投資を行う

-

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
全国(国際)コンペの開催	都心部の公営住宅/施設	上記	公営住宅/施設を対象に、ストック利用・価値転換にてできる宇都宮都心部ライフスタイルのアイデアを募集する	市
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

課題

- ・テーマ、審査員、審査基準の決定。
- ・入賞者の事業(公共)への関わり度合い。

## (2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

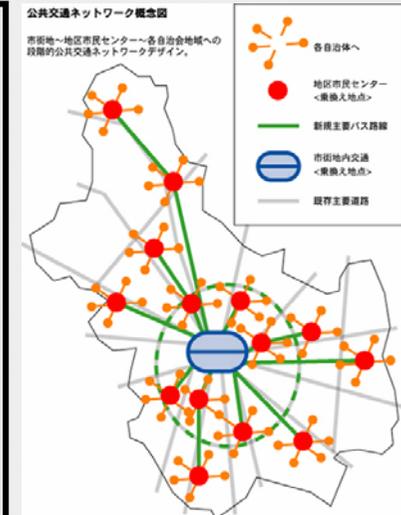
### 施策例⑥: 「まちづくり提案デザインコンペ」

中心市街地や郊外に今後増えると予想されるストック活用について、市民(NPOなど)企業からアイデアを募集。

市民提案によるまちづくりを応援しながら、既存ストックを低コストでうまく活用する(コンバージョンなど)ことを誘導する仕組み。低コストがミソで、ハードの活用と地域に貢献するソフトをどう組み合わせられるかというアイデア勝負のコンペ。以下のようなプランを募集し、コンペで採用になったプランにはハード整備のための補助をつける。また、整備後の運営面においては固定資産税などについての優遇措置をつける。別途提案している「市民参画条例」をつくりこの条項を入れる。

#### a. プロセス

- ・歩いて暮らせる生活圏(後述⑨)に於いてセンター的な役割を担う公益機能を集約した施設。  
中規模の商業空き店舗(ストック)を生かし、コミュニティカフェ・居酒屋、図書館、公民館、診療所などを組み合わせて活用するタイプ。主に地区センター周辺エリアが対象。
- ・街の文化・情報発信機能を担うプラン。  
空き店舗や空家を活かし、コミュニティ型店舗・アトリエ等として活用。プランナーも居住する住居併設施設であることを条件とする。街づくり情報の発信基地的位置付けで、街に住み、街を育ててくれる人を応援するタイプ。主に中心市街地が対象。
- ・市民の福祉向上を担うプラン。  
空き店舗や空家を活かし、住民の福祉向上を担うプランー店舗を併設し、高齢者や子育てサロン、地域の茶の間の場として活用する。主に郊外住宅地が対象。



事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
デザインコンペの実施	都心部、各地域	空き店舗・空家を活用した公益機能施設を整備し、コミュニティづくりに寄与する	採用となったプランにハード整備費用をつける。整備後の運営面では固定資産税等の優遇措置をつける。	市
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

#### 課題

- ・予算の捻出。

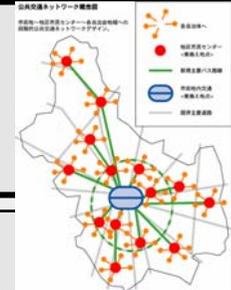
(2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例⑦: 「高齢者向けヘルストレーニングセンターの設置及び運営事業」  
組織的に対象全高齢者の体力(筋力)低下防止を図る

栃木県では平成17年現在65歳以上の高齢者は19.2%を示し、平成27年には24.9%が見込まれる。宇都宮市においても同等の数値の推移が見込まれ、これらの市民の加齢による筋力の低下を防止する措置を施す。この予防行為が様々なレベルにおいての費用負担の軽減につながる。既存施設、ストックを活用した適性配置。地域に密着する20のコミュニティセンターをトレセンとして有効活用する。元気な高齢者をつくる。衰えさせない為の整備。



介護4レベルの高齢者にかかる保険金の費用は概算400万円/年と言われる。仮に宇都宮市で1,000名同レベル要介護者が発生すると年間400,000,000.-の保険金の支払いが発生する。このことは、市民を含めた介護保険料金の増額につながる。栃木県においては、平成17年現在65歳以上の高齢者の占率は19.2%、平成27年には24.9%が見込まれている。故に、本市においては介護保険の適用者を1人でも少なくすることを目標に置き、当該者の健康管理、とりわけ加齢に伴う筋力低下を防止する運動を展開する。

- 1) ベッド、布団で目覚めた時に2～3分行う運動を開発する。
  - 2) 日中、身近で手ごろに筋力維持が保てる運動を開発する。
  - 3) 単位自治会、単位老人会が定期的にその運動を進める。
- 現在、宇都宮市で推奨する運動が各地介護支援センターによって指導されているが、そのカリキュラムを日々実践する高齢者は数%に満たないのではないかと。(難しく、且つ、時間が長いのではないかと)再度、構成の見直しが必要。  
地域の単位自治会、単位老人会が何時でも使用できる会場を地区市民センターに常設する。(当面市内11市民センター)例)常設とは毎週月曜日午前中は自由に使用できる部屋と指導者がいる状態)
- 1) 単位自治会、単位老人会の会員高齢者を地区市民センターのパソコンに登録。
  - 2) 3カ月、6カ月、1カ年などの状態の変化を入力し指導調整を行う。
  - 3) 単位老人クラブ別のデータを表示。(多少の競争意識)
- 実務的には、「みんなでのしく体力測定」順天堂大学 武井教授編などが推奨される。(NHK教育TV まる得マガジン)

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
ヘルストレーニングセンターの整備・設置	特にJR駅西市街地	元気な高齢者をつくる。衰えさせない為の整備。 既存施設・ストックを活用した適正配置。	運動の開発。地区市民センターへの常設。登録制。	-市
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

課題・成果の測定

- 1) 2通り程度作成完了で100←健康維持運動のカリキュラムの作成(現行の見直し)
- 2) 11センター設置で100←地区市民センターの運動室の設置
- 3) 適正要員数:配置実数で評価値←運動指導員の育成(指導方法の見直し、適正要員)
- 4) 向上度合:評価方法策定←当該高齢者の健康データの推移の確認

(2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例⑧: 「子育てシステムの整備」

保育に高齢者を活用し、安心して子供を産み育てられる街にする。

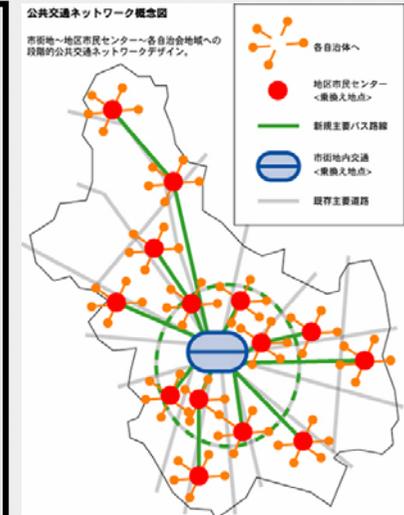
保育問題、少子化、高齢化社会、ストック過多への対応。 → 保育に高齢者を活用し、少子化を促さない社会づくり。

高齢者: 乳幼児=3:2もしくは2:1程度の割合にて面倒を見るシステムとその場所が必要。

安価に安心して子供を任せ、母親は働きに出るか、交流、自分の時間に当てる。育児ストレスの軽減にもなる。そして母親達は活発さ綺麗さを保てる。旦那は奥さんを抱きたいと思いつけられる。結果、子供も増える。適度な時間にて十分な密度の親から子への愛情を注げばよい。保育士は1人で10-20人を見る。しかし高齢者には無理。だから高齢者2人で子供1人をじっくり見る。高齢者は人生のプロ。乳幼児に教えられることは山ほどあるし、扱いも経験者である。場合によっては小学校低学年の週2-3コマを「ジジババ授業」枠として、昔の遊びや地域の歴史等を伝える。

子供は現在の核家族化された家族(主に両親)よりもっと多くの大人達から愛情を注がれる。高齢者にとってはある程度の報酬を得られ、毎日行く所ができる。さらに子供とのふれあい、ときたまその両親(わが子世代)と触れあうことで活力の維持と向上に繋がる。65才の時に見た子供が親になり、80才の時にその子供の面倒を見られたりする。担当高齢者も、その子の成人する迄は死ねないぞ、みたいな気持ちになったり。遠くの親戚より近くの他人。コミュニティの充実に繋がる。

場所について。市内全域在住の高齢者、乳幼児の通いやすい所。既存施設、ストックを活用した適性配置。例えば、各地区市民センター、コミュニティセンター、都心部の空きビル、公共ストック。各施設に保育士を最低1名配置する。こんなシステムを行政にて整備してゆけば、安心して子供をつくれ、正しく育ち、住みたい街となる。



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
子育てシステム・場所の整備	市内在住の幼児、高齢者	安心して子供を産み、正しく育てられる街に。 元気な高齢者を増やす。 元気な母親を増やす。 地域ストックを活用する。 直接コミュニケーションによる文化継承。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 幼児2人に高齢者3人の割合。</li> <li>■ 小学校低学年にて“ジジババ教育”のような枠を。</li> <li>■ 地域の空き店舗や空家、地区市民センターを活用。</li> <li>■ 都心部では空きビルを利用。</li> <li>■ 各施設には保育士有資格者を配置。</li> </ul>	市

課題

・  
・

## (2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

### 施策例⑨:「歩いて暮らせる生活圏の設定」

公共交通の「交通ネットワークデザイン図」と関連しており、ネットワークの拠点(地区センターなど)を中心とした基本生活圏をイメージしている。この基本生活圏においては歩ける範囲に、暮らしに関わるすべての要素が整えられていることが必要。

宇都宮市は全国でも1, 2位を争うクルマ社会であり、宮環など道路整備はかなり行き届き「車」がつかえる限り、何とか暮らせる状況である。しかし、ここで敢えて「歩いて暮らせる」とキーワードとするのには、次のような理由からである。

- ・「歩くこと」と「超高齢社会」がどう結びつくのか。最大の理由は住む場所と職場の通勤だけでなく生活圏までもがクルマ中心に作られており、スーパーなど公益性の高い施設ですら車がないと利用できないような立地(注:高齢者で居住地域が不便と答えた人の半数が、日常の買い物や病院への通院が不便と答えている 平成13年 内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」)になっていることだ。いったいクルマを持たない者はこの先どうなるのか。さらに高齢者の場合、何歳まで支障なく運転できるのか不安は尽きない。
- ・クルマに乗り続けることで健康上の問題も生じることが挙げられる。「歩くこと」が少ないと当然足腰が弱る。また日常的な運動不足により生活習慣病になりやすい。しかも若い頃に足腰を鍛えていた現在の高齢者と異なり、これから高齢者群に入る層は「若い頃から車を使い慣れている」面々である。現在ですら既に増え続ける医療費への対処に非常に苦労している状態であるのに、今後さらに高齢者の絶対数自体が増えた暁にはどうなるのか、相当に危うい状態となることは誰の目にも明らかである。
- ・昨今の生活環境における問題、コミュニティの崩壊から起きる人間関係の希薄化などが顕在化してきた一つの背景として、「歩いて暮らせる」ということが私たちの生活環境から奪われたとことが大きい。

上記のような弊害はクルマ社会が進んでいる宇都宮においては、より早く顕著に現れるのである。したがってこのことに対する危機感を強く持ち、対応策も緊急に講ずる必要がある。歩いて暮らせる生活圏のモデル的なものは幾つか示されているが、まず宇都宮の各地区における独自の生活圏イメージを構築していくことが重要である。

事業名[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
1、モデル地区選定	-	-	中心市街地西部地区など。	市
2、生活圏エリアの設定	-	-	地区における、関連施設分布状況及び地縁的繋がりを勘案。地区住民の参加の元。	市
3、エリア内不足要素の導入	-	-	誘致に際してのインセンティブ付与。公営住宅設置。転居推進/高齢者の住み替え支援制度 全て既存ストック活用インセンティブ付与	-

### 課題

- ・
- ・

## (2) 施策・事業内容 重点課題2. 「住環境、コミュニティの整備」

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

エリア毎/ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによる生活エリア選択が出来るようにする。  
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

### 施策例⑩: 「歩行者優先の道づくり」

コンパクト化した生活圏での歩行者優先とそうでない圏を区分する。生活圏通過交通の制限を図る。  
歩いて暮らせる生活圏が生き生きと機能するための歩行者ネットワーク

前項で述べた「歩いて暮らせる生活圏」へは、生活に必要な施設などが適正に配置されていることが必要であるが、これらをうまくシステムとして機能させるためには、施設間をスムーズに行き来できる歩行者ネットワークの存在が欠かせない。このため、歩いて暮らせる生活圏においては、歩いて暮らせることを支える基盤として、歩行者優先の道づくりを行う。長期的にはいつでも気軽に安全に歩けるよう、生活圏の中に散歩道ネットワークの基盤整備を行う。(自宅から約300m以内に、このネットワークへ到達できるようにする)またこのネットワークへ到達するまでの安全を確保するために、コンパクト化した生活圏における道について歩行者優先と、そうでないエリアを明確に区分けする。そのため生活圏に通過交通の流入を防ぐと同時に、スピード低減を促すような道づくりをする。

\* 急激なモータリゼーションにより、個人のアクティビティが増大することで、今日、旧来のような地縁的なつながりが薄れてきた。しかしモータリゼーションが引き起こす問題はそれだけでなく、道空間がクルマに占領されることの弊害も決して見逃せない。かつての「道空間」は地域の茶の間であり、子どもたちが大人に見守られながら自由に遊べる「地域の庭」だった。近年交通事故による死者数は減少しているが、死傷者数に占める子どもの割合は1990年より増加に転じている。子どもの中でも幼児～低学年にかけての年齢層は、3割～5割が自宅から100m以内の場所で事故にあっている。このところ子どもたちが犯罪に巻き込まれることへの危機意識から、地域での防犯活動は重視されているが、実際には犯罪よりも交通事故に巻き込まれる割合の方がはるかに高いのである。また、子ども時代において体を使った外遊びが重要であることは異論の余地がないと思われるが、子どもたちが家内にこもらないようにゲームをとりあげるとするならば、それと並行して、最も身近な外環境である「道」空間を確保していかなければ片手落ちというものではないだろうか。米国の最新の研究では、家の近くが安全な地域に住んでいる子どもと、そうでない子どもでは肥満児の割合が4.4倍という報告もある。(ただしここでいう安全は主に治安面)

子どもにとって安全な道空間が確保されれば、それはそのまますべての市民、ましてや高齢者にとっても同様に安全な道となるのである。健康のため散歩をする習慣の多い高齢者のためにも、身近な生活環境における道の安全性を確保することは緊急の課題である。

事業プロセス	対象	目的	事業概要	事業主体
1、生活圏エリアの決定と既存資源によるネットワークづくり	市全域	上記	市民参画の元、制定してゆく。短期的にはまず既存の歩行者専用道、緑道、歩道、河川管理用通路などを生かした可能な範囲でのネットワークを形成。	市
2、圏内道路デザイン	制定生活圏	通過交通の制限、圏内スピード低減	上記ネットワークの不足部分(つなぎ)について、歩行者優先とする道路エリアをチョイスする。舗装パターンデザイン、ハンプの設置等	市
3、利用時間制限の仕組みづくり	制定生活圏	進入車両の低減	標識、車止め等の設置等	市

### 課題

- ・反対意見の説得。
- ・予算の確保。

## (2) 施策・事業内容 重点課題3. 景観意識の高揚

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する

施策例①: 「景観評価機会を増やし、その結果が影響力を持つようにする」  
市民個人レベルでできる景観への影響力の啓蒙 <遅効性、長期的効果>

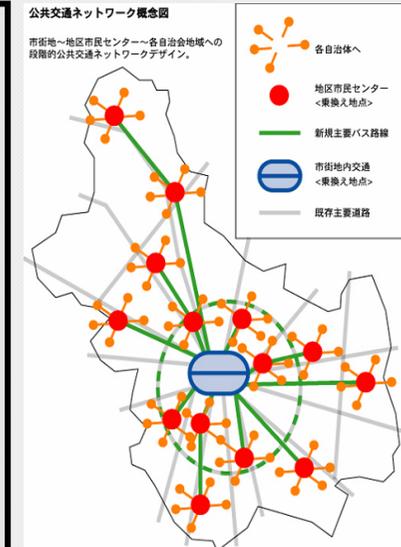
宇都宮市の地域別に(住宅地、商業地、駅前、シンボル)景観を継続的に評価出来る機会を設ける。

県都宇都宮にふさわしい景観を形成する為に、市民、来訪者が景観について評価し、それを集計できるシステムを継続的に設ける必要が有る。具体的な視点場からの眺望を評価し、景観を地域の財産として守り高めることが必要。また阻害要素を是正する意見をつねに集計公表する事で、市民一人一人が地域の景観に寄与出来るとの意識を共有する必要が有る。

- 1、まずは、とにかく各エリアについて評価(文句?)してもらおう。
- 2、1年かけて回数、人数(多立場)、地域数を重ねていくことで評価軸を徐々に整えてゆく。
- 3、評価軸を設定し、ABCDE評価として公表する
- 4、各々のエリアを一定周期(何年か毎)で繰り返し評価し続ける。

A評価のエリアには分かりやすい「しるし」を設置する(剥奪アリ)。→ブランド化  
地域住民による伝統的文化遺産の保存・活用の検討会に評価を活用する。  
市内全ての地域を網羅することが重要。

新規の開発(重点地区で一定以上の規模)のものは、景観デザイン面において必ず事前チェックできる仕組みをつくる。そのために学識者・一般市民・行政による「景観審議会(仮称)」を設置する。そこには魅力的なライフスタイルを提案出来る人も加わる。また審議会の決定には一定以上の効力を持たせる。



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
景観評価付け	市全域	上記	景観評価会の設置。フィールドワークによる評価軸の設定、全地域A~E評価。公表。繰返し。ブランド化	市、推進機構
景観事前審議	市全域	景観	計画建物等についての景観的審議、強制力	市

### 課題

- ・人の集め方 →多立場の人々を集めたい。日時、礼金、義務化、
- ・エリアの設定法 →どういう範囲を1エリアとするか。通り? 街区?
- ・評価をまとめる委員、組織→だれが評価をまとめるか。だれが評価軸を決めるか。・影響力の持たせ方→評価結果にステイタスを感じてもらいやり方とは?
- ・住民<外来者な地域の扱い →当該エリアの住民よりも外来者の影響力が大きい地域についてはどう扱うか。・PR(広報)戦略 →ふさわしい公表の仕方。

## (2) 施策・事業内容 重点課題3. 景観意識の高揚

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する

### 施策例②：「 景観に関する地区計画を定める 」

①の景観審議に先立ち、景観面でのテーマ/ルールを制定する。

景観重点地区においては、予め地区計画のようなもの、内容的には景観面でのテーマやルールを市民参加で決めておくことを義務づける。そしてその地区で新規の開発が行われる場合など、開発計画が地区のルールに適合しているかどうかを審議することになる(①の景観審議会)。モデル(先行)地区としては、大通り沿いや歴史軸、JR駅前など。

規制: 宇都宮の顔となる地区・・・駅前、既存文化財の周辺(松が峰教会前、二荒前等)田川周辺、釜側周辺、歴史軸

保全: 50年以上経た建築物が建ち並ぶ地区(清住、南宇都宮駅前、六道)

形成: 大規模開発、再開発地域

まずはモデル地区から

1、地区計画を定めるモデル地区を決める。(景観地区の中でも緊急性やアピール度の高い地区)→JR駅前、二荒山神社前を含む大通り沿い、清住町通りなど

2、上記地区について、地区住民、行政、専門家、市民(NPOなど)で景観ルール計画策定委員会を設置して計画をつくる。

→地区イメージ・テーマの共有化→テーマを実現するためのルールづくり→住民への浸透→実行→チェック(景観審議会など)そして管理運営。

※これらの重点地区については、直接の利害関係住民のみでなく「市民」の意を広く捉え、例えば500人程度の署名が得られれば、別途景観市民懇談会を立ち上げ、計画策定委員会へ申し入れができるようにする。

・地区ルール計画策定委員会: 景観重点地区ごとに設置される詳細なルールを定める委員会

・景観市民懇談会: 景観重点地区ルールへ提言、申し入れができる外部市民の会

・景観審議会: 景観地区の開発事業などに際し、事業がルールに則しているかどうか審議する会

☆ (子供、高齢者、障害者、妊婦も)安心して暮らせる美しい都市の形・ルールを作る。

※ワークショップ例: 自治体が球根を出し、学校教育・地域活動にて子供が植える。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
規制、保全、形成地区の制定	景観重点地区	上記、循環都市の構築	緊急性やアピール度の高い地区をモデル地区と定め、策定懇談会設置。ルール作り。	景観整備機構
景観教育	市全域(モデル地区から)	上記	「地区計画」という授業枠を設ける。あるいは地区センターなどの独自事業で展開。 ワークショップやフィールドワークを行う。	景観整備機構、 NPO、行政、 地区センター

### 課題

・私権が制限されるので具体的な数値規定などまで踏み込むのは厳しい→あいまいな表現にとどまりがち

・実効性をどこまで確保できるか。

## (2) 施策・事業内容 重点課題3. 景観意識の高揚

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する

### 施策例③：「宇都宮らしい景観の保全、保存を成立させるシステムづくり」

市街地に点在する大谷石蔵や、宇都宮の歴史を伝える建物、宇都宮らしい景観を次世代に引き継ぐ為、保全、保存、活用を支援する仕組み作り。

市街地に点在する大谷石建造物。宇都宮の歴史を伝える古くからの街道沿い町並み。どちらも宇都宮独自の風景を形成する重要な要素である。しかし経済的、利便的理由により、これらは解体消失する方向にある。それらを「宇都宮らしさ」確立に必要な要素と位置づけ保全、保存、活用を支援する必要がある。また、大谷石については、素材としての魅力を発信すると同時に、現在では希少となってしまった手掘りの大谷石を再利用する仕組み作りが必要。宇都宮の重要な資産である大谷石の蔵などが簡単に取り壊されないよう、早急に保全策を講ずる。

#### プロセス

- ・「景観形成建造物」のピックアップと、それらについての徹底した現状調査(建物調査、所有状況、所有者の意向など)→関連NPOなどからの情報提供 協力体制
- ・上記についての評価と独自の認定基準づくり
- ・認定された建造物保全を支援するバンク、基金、アドバイザー制度の整備→関連NPO、企業などの協力体制

地区計画を定める地区などについて先導的に実施し、相乗効果が得られるようにする。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
大谷石バンクの設立	市全域の所有者/利用希望者	大谷石建造物をすべて保存する事は難しいが、建替えと同時に、今では得られない、手彫りの石、質の良い石材が廃材として潰されてしまう。	所有者・希望者のマッチング。ストックと再利用のシステム作り。大谷石基金の設立。アドバイザー派遣制度。	市、推進機構
景観形成建造物の認定	市全域	上記	50年以上経過している建物。大谷石による建造物について。市で認定できる敷居の低い制度とする。徹底した現状調査が必須。	市
登録文化財制度のPR	市全域	上記	広報戦略から再考する。先導的实施。大谷地区：埋め戻しを早急に。	市

#### 課題

- ・やはり財源の確保
- ・価値があることについての所有者への説得 市民の応援

(2) 施策・事業内容 重点課題3. 景観意識の高揚

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する

施策例④：「 既存補助事業に景観寄与義務を絡める 」

補助が出れば(付加分のお金があれば)景観への寄与はきちんと行われるか <速効性、短期的効果>

既存補助事業のリストアップ

→「中心商業地空き店舗出店促進助成事業」商工会議所街づくり推進課  
「特定優良賃貸住宅供給促進制度、中心市街地特例」宇都宮市住宅課

景観寄与要素を定め、補助金審査が正当に行われるようにする

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
1、既存補助事業のリストアップ	市全域	上記	「空き店舗出店補助」「優良賃貸」等。	市、推進機構
2、審査会設置 寄与要素の設定	市全域	上記	メンバー選定。	市、推進機構
3、予算枠確保、PR	市全域	上記	広報戦略。	市、推進機構

課題

- ・景観寄与要素のリストアップ
- ・景観補助金枠の確保
- ・リストアップメンバー選定(多分野、多世代)
- ・「景観って何かね?」って聞かれても困らないように

## (2) 施策・事業内容 重点課題3. 景観意識の高揚

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

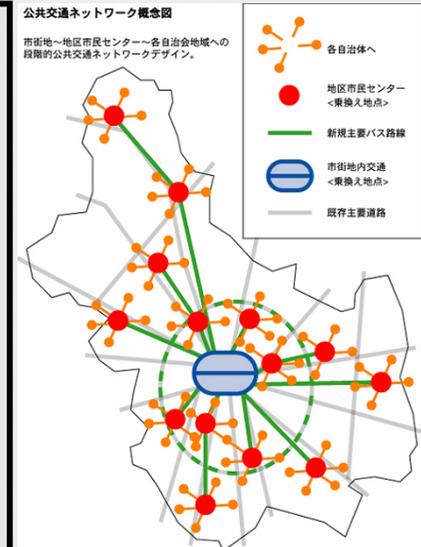
景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する

施策例⑤:「学校教育に「景観教育」をきちんと位置付ける」  
自分たちの地域を知り、地域を愛する次世代を育てる。

生まれ育った地域の特色、歴史を知る事で、地域への愛着が育まれる。その気持ちを核とし景観への関心を高める必要が有る。地域が変化してゆく事への適切な判断や、住み続ける事の価値を、市民の常識レベルに浸透させてゆく必要が有る。

### a. プロセス

- ・景観教育をいきなり学校でというのは困難なので、地区計画策定と絡めてやってみる。(子どもたちとのフィールドワークなど)小学校区(または中学校区)単位などで、地域ぐるみでの学習を兼ねた景観現況把握と、テーマ、ルールづくりを行う。グリーントラスト参加活動の延長線上か。
- ・少しずつ実績を作っていく中で、学校教育の中へ組み込んでいく。
- ・学校での景観教育をバックアップする体制(外部との協力体制づくりと現場教員への教育)
- ・百景ツアーは、バス会社に半ボラ(社会貢献)してもらおう。運転手・ガイドはリタイアした人に半ボラで。
- ・中学校の総合学習に「景観教育」を組み入れる(「環境」の一部としてとか)。地域内で「私の好きなまちなみ景観」というようなテーマで写真やスケッチを募集し、「〇〇地域のちょっと素敵なまちなみマップ」みたいな形にまとめ、地域の主な施設、各家庭に配付。素材の募集〜マップまとめまで総合学習の中で行う。サポートには地域の景観教育応援隊(建築やデザイン関係をリタイアした人)が入る。



事業プロセス	対象	目的	事業概要	事業主体
フィールドワーク	市全域	上記	景観教育をいきなり学校でというのは困難。地区計画策定と絡めてやってみる。	市、景観整備機構
地域ぐるみ学習	小学校区、中学校区	上記	景観状況把握とテーマ、ルールづくり。地域老人会、自治会協働。	市、地区センター、NPOなど
百景ツアー	市全域	上記	クラス単位で実施できる体制づくり。	市、バス事業者

### 課題

- ・学校との連携
- ・子どもたちは忙しい

## (2) 施策・事業内容 重点課題3. 景観意識の高揚

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

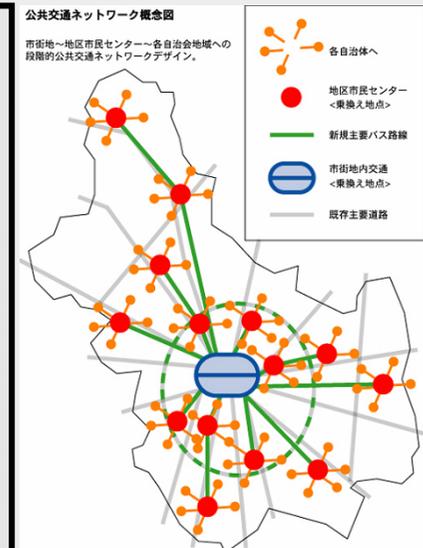
景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する

施策例◎：「 住民の自発を促す活動/立場自体を支援できるシステムをつくる 」  
 景観形成の際に常に最大の壁となる、住民合意を円滑にする為の活動への助成。

例えば景観法について。全てのスタートとなる景観計画を作成するに当たり、土地所有者等の2/3の同意が必要となる。現状ではこの段階で進めることが出来なくなってしまう。住民が自発的に景観に関する要望、提案をするのはゼロに近いし、時間を作れる立場の人しか景観について考え、参加することが出来ない。特に20-30代の参画は不可能だし、売れに売れている店主も忙しい、必要性を感じない、等の理由で無理だろう。

そこで、住民の自発を促すような活動自体に、公から助成するようなシステムが必要。「景観ディレクター」というべきか。住民意識形成に尽力する人がいないと、動かすことが出来ない。  
 公共の景観事業費としては、こういった準備段階での金(人件費)が発生するばかりか、実施の機会が増えることにより、増加してしまうが。。。

作る側と利用者が知恵を出し合うことが重要。



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
助成制度の策定	市全域	時間を作れる立場の人しか景観/街づくりに参画できない。実行にしか助成対象がない。使える人づくりを支援してゆくこと。	助成対象の基準作り。審査/評価方法決め。コンペの必要性検討。	市

### 課題

・補助対象活動の審査、評価方法の設定。

(2)施策・事業内容 重点課題3. 景観意識の高揚

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する

施策例⑦：「 ①～⑥を含め、景観条例として体系化、実効性を持たせる 」

上記の施策は、バラバラに行うのではなく、きちんと景観条例を作ってその中に位置づけ、市民の「景観権」の実効性と継続性を保障する。

**プロセス**

現在、宇都宮市景観計画とその根拠となる条例策定に向けて準備しているらしいです。

- ①、宇都宮市景観計画策定委員会(仮称)庁内組織
- ②、宇都宮市景観計画策定懇談会(仮称)庁外組織
- ③、パブリックコメント、説明会など

という構成です。

※②の懇談会は学識経験者、公募委員、市議会議員、関係団体代表、関係行政機関で構成される

各々の事業について、目的に沿ってきちんと実施するためのチーム、そしてその成果評価チームそれぞれについて市民参画のうえに進めていくことが必須。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
-	-	-	-	市

**課題**

・宇都宮の景観づくりに市民がきちんと参画できるよう条例に位置付ける。

## (2) 施策・事業内容 重点課題4. 環境施策の個人レベルへの浸透

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

「めんどくさい」を軽減するのではなく、「それでもやる」理由・動機付けの仕掛けをする

### 施策例①：「家庭版ISO普及事業」

ISO取得は、市民の主体的総合的な環境活動参加へのバロメータであり、認定比率向上が市民の誇りになるような仕掛けづくりが重要である。

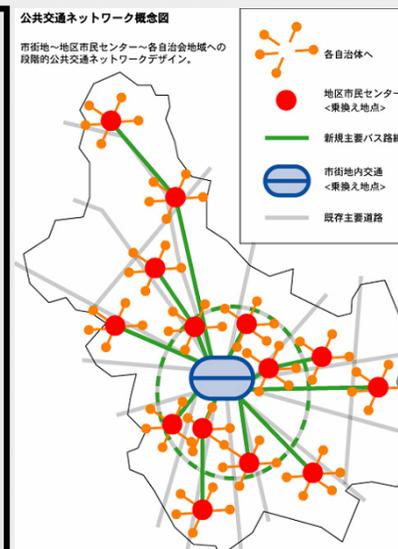
首都圏に隣接する自然豊かな50万都市宇都宮市は、「環境都市うつのみや」として発展することに大きな意義がある。市で導入している「家庭にチャレンジ・家庭版ISO」は市民参加の入り口として適切であり、幅広く継続的に実践していくことで家庭生活における環境負荷低減とともに市民意識の変革が期待できる。団塊世代のリタイアが始まった今、これらの人を活用した普及活動は、普及事業拡大の好機でもある。

しかし、その認定数は、〇〇世帯(9月1日現在)であり、全世帯の〇%に過ぎない。認定比率向上が、市民の誇りになるような仕掛け作りが重要である。

また現在の認定制度は、認定取得までに重点が置かれ、認定家庭が地域のけん引役になるよう、継続して環境活動を展開できるような仕組みも重要である。

#### プロセス

- ・認定比率を各地域ごとに集計発表する仕組みをつくる。(市だより、新聞、地元TVなど)
- ・認定拡大活動を地区センター(または自治会)単位に進める。
- ・そのために各地域で任命されている「廃棄物指導員?」を、ISO普及委員に格上げする。
- ・各地域ごとに普及率を競争する状況をつくる。⇒ わが地域の誇り!
- ・認定済家庭が。継続して環境活動を進められるよう、次のような動機づけを行う。
- ・各家庭での実践活動発表の場(パンフ、市だより、新聞、地元TVなど)をつくる。
  - ・地域単位に表彰、ご褒美(ゴミステーションの整備、「ISO活動推進地域」看板設置など)



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
認定比率の向上	市全域	上記	認定比率の集計発表。地区センター(自治会)単位での拡大活動。ISO普及委員の設置。	市
認定比率のブランド化	市全域	上記	地域間競争の状況づくり。表彰、褒美。	市
認定後の継続	市全域	上記	発表の場づくり。表彰、褒美。	市

#### 課題

- ・宇都宮市環境基本計画などへ、ISO普及率を数値目標化する。・普及指導員の育成(各地域ボランティア)
- ・家庭版ISOの内容充実(景観的要素も入れる) ・地域ブランド化につながるよう活動の広告宣伝体制づくり。

## (2) 施策・事業内容 重点課題4. 環境施策の個人レベルへの浸透

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

「めんどくさい」を軽減するのではなく、「それでもやる」理由・動機付けの仕掛けをする

### 施策例②: 「学校版ISO普及事業」

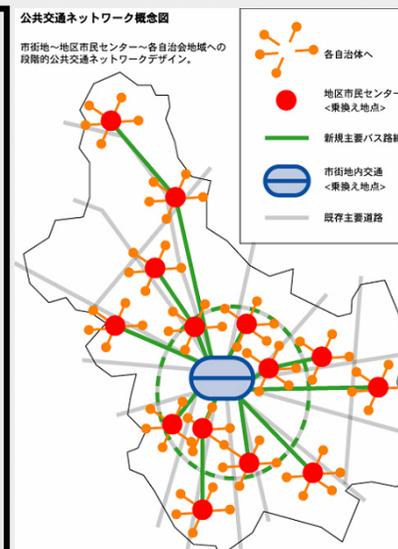
ISO取得を通じた環境実践活動は、大きな人間教育につながる。

学校における環境教育の重要性は論を待たないが、その取組み手法は千差万別である。学校版ISO導入は、環境問題を広く捉え、一方身近な実践活動から始めることができる有効な手法である。市域全体の学校に広げることで「環境都市うつのみや」としてのブランドイメージを向上し、子どもたちも自分の街に誇りをもつ要素になる。その実践においては、地域のISO取得企業、大学の出前講座や見学会受入などで支援する体制を整備したい。

#### プロセス

- ・1校1活動(廃棄物、省エネ、美化活動など)を定め、各学校ごとにテーマを絞った実践活動を展開する。
- ・地域のISO取得企業、あるいは大学は、出前講座/見学会開催などで学校を支援する。
- ・活動に弾みをつけるため「活動発表会」を開催し、その状況を新聞、TVなどを通じて全国に発信する。

小学校の総合学習の中にある、「環境」の時間の為に、市独自のオリジナル副読本をつくる。その中かなりのページ数を割いて、学校版ISO/家庭版ISOについて教材化。この教材を元に、「わが家のISOプラン」を生徒に立ててもらい、PDCAサイクルを学習する。副読本作成、授業サポートには工業団地にある大手企業退職者に協力を要請。(CSR)



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
1校1活動	市全域	上記	各校テーマを絞った実践活動の展開。	市
学校活動支援	市全域	上記	ISO取得企業/大学からの出前講座/見学会の開催。	市
発表評価機会	市全域	上記	活動状況をメディアにて全国に発信する。	市

#### 課題

- ・学校教育方針に「ISO認定取得」を盛り込む。
- ・学校版ISOの内容充実
- ・他県先進事例校との交流

## (2) 施策・事業内容 重点課題5. 市民参画システムをつくる

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に!

施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る

施策例①：「 今回の市民会議のプロセスを発信し、市民参画条例として結実 」  
行政・市民協働が不可欠か、成立するか、参画可能範囲は、を測る、ケーススタディの実施

2007年7月からの総合計画審議会にて検討する内容を作成する庁内の部会に、4月から当該分科会のメンバー(の代表?)参画の上、進めてゆく。審議会には市民会議より2-3名参加する。参画メンバーはそれ相応の責任と報酬を受ける。

2008年4月に総合計画が完成・公開。

2005年~ここまでの市民会議のひとつの流れを実体験することで、一つの市民参画手法についての課題や展望が初めて明確になる。この成果を次のようなカタチで生かす。

- 1、市民会議プロセスの発信・・・総合計画の中に、または総合計画普及版(仮称)の中に、この計画策定にどのように市民が参画したか、協働で実現した施策、参画で得られたこと、改善すべきことなどを明記し、広く市民全体に発信していく。
- 2、市民参画条例の策定・・・今回の市民会議の経験だけでなく、市における他の参画(協働)実績について評価し、それらの結果をふまえて実効性のある市民参画条例を策定する。(市民参画型で)

行政、学術、民間を上手に積極的に「利用」するべき。各々得意技が違うんだから。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
市民参画条例への準備	-	市民提案に相応の責任と報酬を。行政・学術・民間の各々の得意分野を政策面で上手に利用し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2007年4月以降の総合計画部会に各対応分科会メンバーを数名、審議会に全体から数名参画し、協働にて総合計画を策定する。</li> <li>■ その後、ひと流れ経験後に、課題や展望を整理し「条例」へ向けてメンバー参画のもと、検討する。</li> </ul>	市

### 課題

・何の事業にしても、「参画メンバーの選定法」と「報酬の確保」が解決されれば、あとは動けば解決する要素を押さえることで、協働を始められるのでは?

## (2) 施策・事業内容 重点課題5. 市民参画システムをつくる

☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る

### 施策例②：「政策ディレクター(室)の設置」

政策を総合的に企画、方向付け、役割分担を行う「創造的」専任チームを庁内に設置する。

現状では、総合計画→各課/担当という図式にて施策が企画-検討-絞込み-施策化-実施-評価と行われている。市の目指すべき方向性を基準に、上記の「企画-検討-絞込み-施策化そして関連課への役割当て-管理-方向修正-評価」を担当する、ディレクター的なスタッフにて構成される少人数のチームが必須。施策実施の手法についても、学術関係者や、他地方都市、市政研究センター等とのニュートラルなコミュニケーションを取りつつ、創造的なスタッフの基地としての「室」として位置付ける。といった存在。スタッフは庁内から匿名立候補の上、面接にて選定。市長直属のチームとしても可。

庁内に、他課のような事務処理に適した部屋でなく、創造性を引出すようなインテリア/家具を持った「室」を設ける。ここは、庁各課のスタッフがある程度自由に入出入りし雑談のできる部屋。市民に関しても、市の認める/必要と思える方々(ある種の専門家?)に関しては、雑談をしに来ることができる。具体的事業内容自体についての権限は持たない為、市民の方々とも、答弁ではなく雑談としてコミュニケーションがとれる。そこで得た情報や需要の取捨選択は自由。

例) SONY、NISSAN、HONDA、OLYMPUS等の企業は、本社とは別の場所(例えば青山やロンドン)に企画室のような別室を設けていて、驚くような新商品のコンセプトはこれらに通うスタッフによって生み出されている。彼等は決まった時間に出退社、デスクに張付いて仕事をしているわけではなく、室の近隣を歩き回り、本を読み、人と話す。デスクでは「新たに求められるモノ/情報を生み出す」という共通の方向性を持ったスタッフと雑談をし、アイデアの妥当性を確認する。。。

政策は事務仕事で片付けるモノではなく、現状課題と将来予測から総合的にデザインしてゆく、相当な創造力と企画力が求められるモノである。それに相応しいスタッフ、場所、権限、責任を用意し進めていくべき。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
政策ディレクター(室)の設置	庁内	タテワリ行政の払拭。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 場合によっては、一部外部委託スタッフを組入れても。</li> <li>■ 市長直属のチームとしても。</li> <li>■ メンバー選定法は公開する。</li> </ul>	市

課題

・  
・

(2) 施策・事業内容 重点課題5. 市民参画システムをつくる

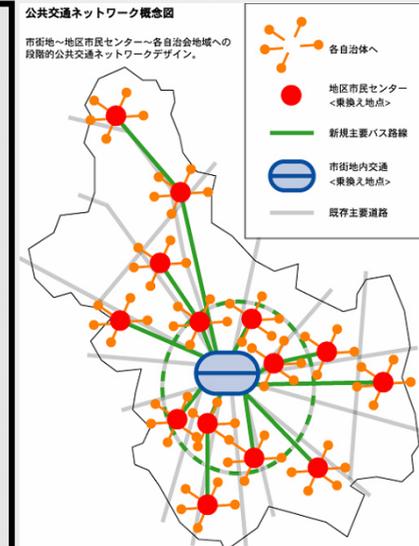
☆宇都宮を<日本一住みやすい街>にする為に！

施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る

施策例③：「 介護事業者監視事業 」

介護提供事業者のサービス内容を監視する組織を構築する

介護事業者にはサービスの提供の対価として公及び個人からその費用が支払われる。事業者によるサービスの差異が指摘され、又、夜間業務における虐待等々が喧伝されている。市の当該課のみでは実情の把握が難しく市民参加による監視(チェック)組織編成する。



事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
-	-	-	■-	市
-	-	-		市
-	-	-	-	市

課題

- ・
- ・

---

参考資料：生活環境整備分科会 重点課題・SWOT分析結果

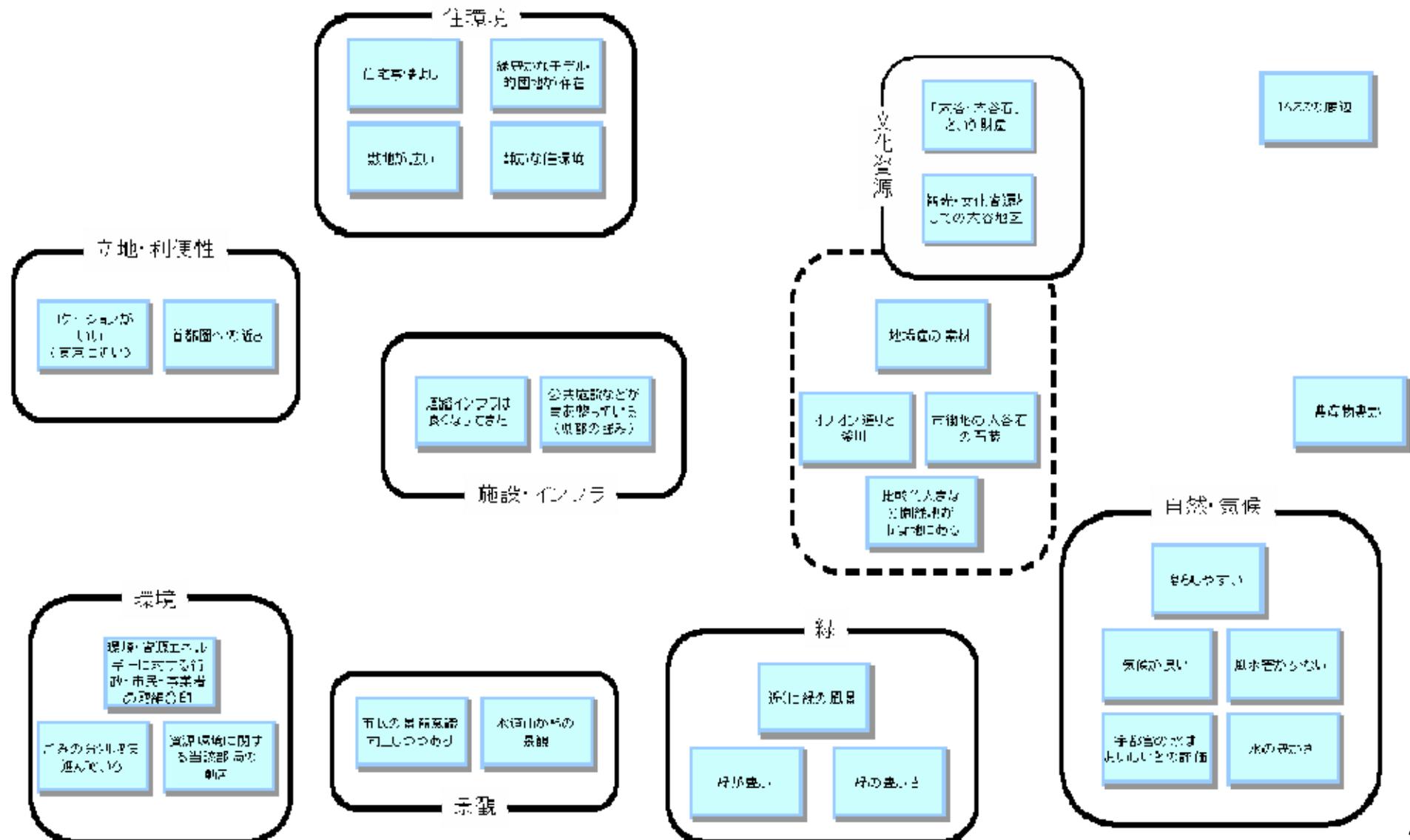
## (1)本市の重点課題に対する認識

### 宇都宮市の生活環境整備分野における重点課題

重点課題	背景・理由	やるべきこと
生活者・利用者の視点にたった公共交通ネットワークの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●LRT導入が先んじ、既存バスシステムなどの見直しがなされてない。</li> <li>●近年バスの本数は増えているが、乗客数は減少。またJR駅を基点としているため路線重複・乗換え・料金など非効率な部分が多い。</li> <li>●今後増大する高齢者の暮らしやすさだけでなく、彼等が社会資源として活躍できるためにもアクティビティの機会を保障しておく必要がある。</li> <li>●自転車都市・宇都宮ならではの特徴を生かした交通ネットワークづくりができないか。</li> </ul>	<p>まちづくり全体をみずえたビジョンのもと、乗用車・バス・LRT・自転車・歩行者などのすみわけと連携、また広い市域を濃淡をつけてカバーできる交通システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITを活用したリアルタイム乗換え案内（バス）</li> <li>・公共交通チケット統一システム</li> <li>・パークアンドライド（車＋公共交通、自転車＋公共交通）</li> <li>・コミュニティ単位のミニバス（コミュニティで運営）</li> <li>・宮環における循環バス</li> <li>・既存バス会社の調整。場合によっては市バスも検討。</li> <li>・歩・車・自・バスのすみわけの明確化</li> </ul>
住環境整備とコミュニティづくり（主にまちなか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちなかはマンションラッシュとなっているが、居住者が暮らしやすい生活基盤は保障されているか。コミュニティとのつながりも薄れているのではないか。</li> <li>●放置されたままの空き店舗、空き家、空き教室、空きオフィスを有効に活用したい。</li> <li>●市独特の資源やまちなかの魅力が十分に発信されてない。</li> </ul>	<p>街なかでのステキなライフスタイルを提案できるような基盤整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩ける範囲における生活基盤の充実整備。</li> <li>・街なかの資源（大谷石、ライブハウス、飲み屋街など）を活用した新たな街暮らし文化の創出。</li> <li>・上記の拠点となるようなコミュニティセンターや公営住宅供給（新築より既存ストックの活用）ミクストハウジング、コレクティブハウジング推進→若い建築家からのアイデア募集</li> </ul>
景観文化意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年夏、文藝春秋に掲載された「日本の醜い景観」ワースト1の汚名を返上したい。</li> <li>●すべての市民の誇りとして共有できるような心象景観を創造したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規制と規制緩和の使い分け</li> <li>・市民参加型の景観評価の機会を増やす。例：公共建造物はもちろん、民間開発のものでも特定エリアで一定以上の規模を有する場合などにコミットできるような検討・審査会をつくる。（まちづくり条例の制定による、市民の参加機会の保障）</li> <li>・景観文化意識醸成（出前講座の活用推進、学校教育との連携）</li> </ul>
環境施策の個人レベルへの浸透	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宇都宮市では家庭版ISO、学校版ISOなど先進的な取組みがみられる。これらの徹底周知をはかり、もっと広く個人レベルへ浸透させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭版ISOなどのブランド化。安易に外部委託せずそのブランド性と信頼性をより高めていく。</li> <li>・市民の義務としての認識を高める（教育サイドからの仕掛け）</li> </ul>
統括的にまちづくりを推進・評価する仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合計画を責任持って推進し達成状況などを評価するのは誰なのか？</li> <li>●これまで既に相当数のまちづくり提案・計画が存在していたはず。しかし、実現に至っているのはごくわずかなのはなぜなのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画書に、責任をもってその施策を推進する部署・連絡先を記載。達成目標（数値）の根拠の明確化。達成状況の定期的チェック。それについての市民を含んだ第三者評価の仕組みづくり。</li> <li>・行政や民間開発によるのまちづくり施策・事業を横断的に統括し推進していく組織・仕組みづくり。（権限・予算の保障）</li> </ul>

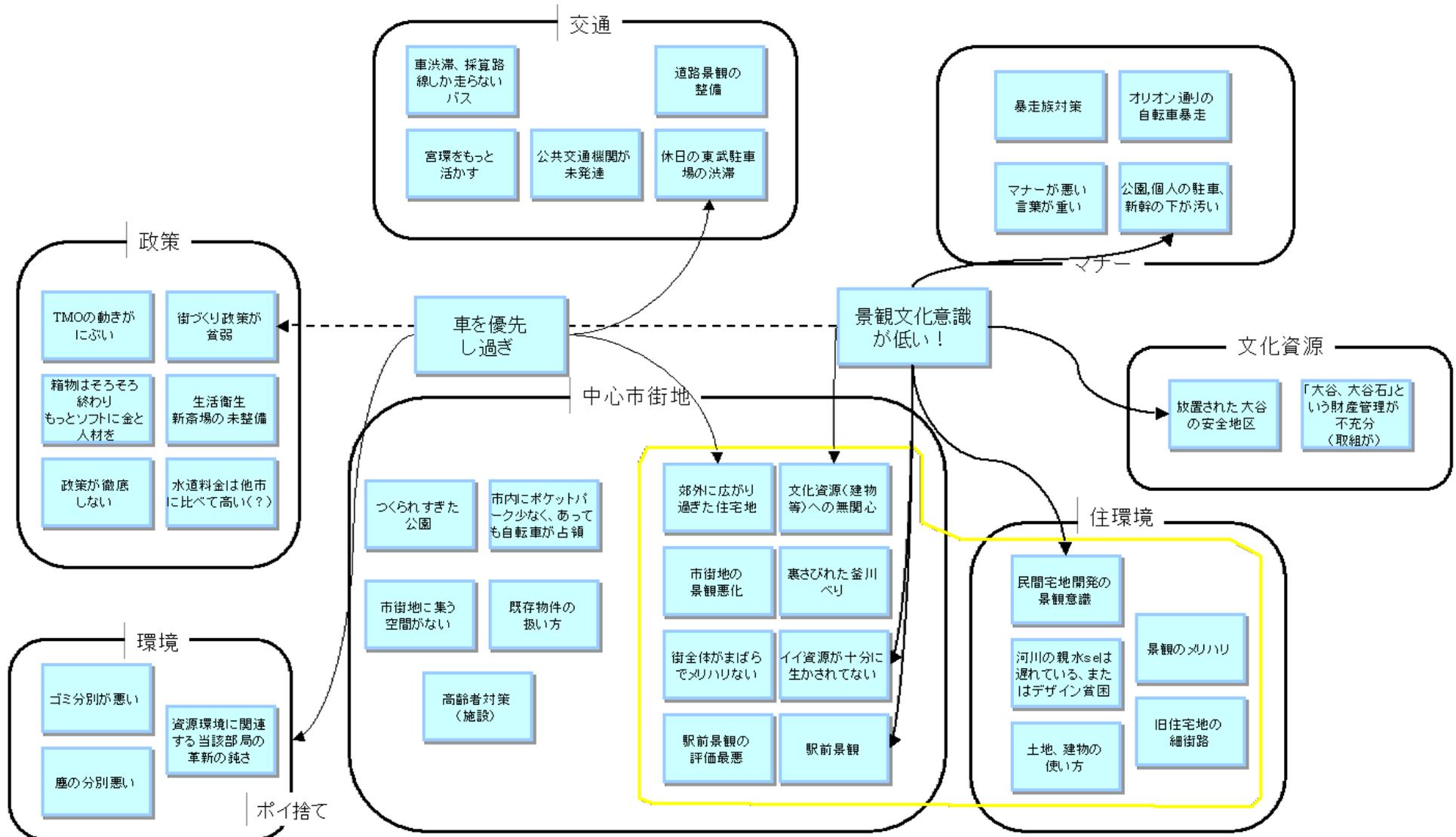
## (2)SWOT分析結果 (1)SWOT分析 ①強み

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



## (2)SWOT分析結果 (1)SWOT分析 ②弱み

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



## (2) SWOT分析結果 (2)SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果(5つ程度)

生活環境整備分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。  
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

### 強み

- ①首都圏からのアクセスが良い
  - ◆工場誘致
  - ◆他見からの定住が多い
  - ◆文化交流
- ②緑と水の自然に恵まれ風水害が少ない
- ③大谷地区の景観と大谷石による建造物を保有
- ④周辺部に豊かな住環境を得やすい
- ⑤自動車道路の整備が進んでいる
  - ◆内・外環状線

### 弱み(問題)

- ①公共交通の整備・ネットワークが悪い
- ②景観・文化意識が低い
- ③まちづくり統括的に支援、補助、制限推進する機関がない
- ④市街地の公共スペースー住環境の魅力がない
- ⑤産業廃棄物量が減らない

(2) SWOT分析結果 (3)SWOT分析 ③機会／④脅威  
 生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」は以下の通りである。

機会		脅威	
<p style="text-align: center;"><b>循環型社会への移行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇細分化されたゴミの処理の実態が求められる</li> <li>◇資源リサイクルのため、分別が更に細分化される</li> <li>◇公道等へのポイ捨てへの罰則が強化される</li> <li>◇水の豊かさを大切に</li> <li>◇高齢者も容易に理解できる分別細分化の手法が求められる</li> <li>◇外国人労働者などへの資源リサイクルの教育説明が必要となる</li> <li>◇分別が進むと現在のゴミステーションの形態が変わる</li> <li>◇環境エネルギー</li> <li>◇省エネ実現への国際的要求</li> <li>分別が進むと無主物から有主物へ変わっていく</li> <li>◇分別が進むとゴミ収集車は週7日稼働へと変わる</li> <li>◇自治会内でのゴミ環境は美化へ転換する</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>景観意識の高まり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域性が見直しが高まり、市の独自性が問われる</li> <li>◇本県の文化遺産に誇りをもつ</li> <li>◇城址公園ができる(景観シンボル)</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>循環型社会への阻害</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ゴミの最終処分場はいっぱいになる？</li> <li>◇廃棄物課金</li> <li>◇産廃処分場の枯渇</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>社会不安の増大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子どもの登下校時の安全確保</li> <li>◇地域のコミュニティはこのままだと崩壊</li> <li>◇規範意識の低下(ルールを守らない)</li> <li>◇外国人労働者の増加(異文化のブツカリ)</li> <li>◇若い人の社会参加意識の低下</li> <li>◇社会階層化が進む(できる者とできない者)</li> <li>◇ポイ捨てが後をたたない</li> <li>◇労働人口の減少</li> <li>◇元気な高齢者の社会参加圧力</li> <li>◇高齢者医療費の増大</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>行政役割の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇広域行政の実現(道州制の導入)</li> <li>◇小さな政府、地方行政開花のチャンス</li> <li>◇地方都市間の連携強化</li> <li>◇教育投資の増大</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>中心街への回帰</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇集中型都市の必要性</li> <li>◇ミニ開発の限界</li> <li>◇都市観光客の増加</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>宮らしさの衰退</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇宇都宮のことを知らない宮っ子二世の増加</li> <li>◇文化遺産への無関心</li> <li>◇中心市街地に残された大谷石建造物の老朽化</li> <li>◇景気の高まりと共に、歴史的景観が無くなって行く(蔵等の小規模な物)</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>公共施設の維持不安</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇税収減により都市施設整備が遅くなる</li> <li>◇税収の減少、緊縮税制</li> <li>◇市財政の赤字化</li> <li>◇道路景観の整備</li> <li>◇インフラ老朽化</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>高齢者の貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇団塊世代高能力者の時間的余裕</li> <li>◇清原や芳賀の企業に勤める人の大量退職</li> <li>◇元気な高齢者の社会参加余裕</li> <li>◇無職の人が増加</li> <li>◇高齢化により時間あまり世代が増え、文化・環境への関心が高まる</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>生活意義の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇大量消費のおわり</li> <li>◇「満足」するジャンルが変わる</li> <li>◇県民意識改革</li> <li>◇個人教育</li> <li>◇自然を重視する社会への回帰</li> <li>◇ゆっくり生活への回帰(省資源、省エネ)</li> <li>◇県民性を知るマナー、態度</li> <li>◇使い回し方の質</li> <li>◇生産されたものが再利用されるようになってきている</li> <li>◇利便性需要→文化需要へ(より日常的な)</li> <li>◇地産地消、Slow Lifeと地域への関心が高まっている</li> <li>◇趣味の質</li> <li>◇生活の質</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>ストックの増大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇静かな住環境</li> <li>◇空家、空き店舗の増加、廃墟化</li> <li>◇中心市街地に増える駐車場、未利用地</li> <li>◇建物老朽化</li> <li>◇市中心部のスラム化</li> <li>◇北関東道開通により、郊外型ショッピングセンターに益々依存する</li> <li>◇中心市街地に急増するマンション</li> <li>◇高齢化により車への依存度が低くなる ⇒中心部へ</li> <li>◇郊外大型店の撤退</li> <li>◇事業所や店舗の郊外転出</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇金のない無職の人が増加</li> <li>◇交通弱者の孤立</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇外国人労働者の増加(低コスト)</li> <li>◇道路インフラは良くなってきた</li> <li>◇地価基準の崩壊</li> <li>◇よその街のよいところを学ぶ</li> </ul>			

## (2) SWOT分析結果 (4)SWOTクロス分析結果

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

### 強み×機会

強み:首都圏アクセスがよい

- ◇街を楽しむ人の訪れの期待(景観意識)
- ◇大谷石を生かしたオンリーワンの都市観光で東京人をひきつける(景観意識)
- ◇東京から企業誘致ITビルディング(中心街回帰)
- ◇駅前利便顔づくり(中心街回帰)
- ◇首都圏からアクセスが早くなり新しいニュースが身近にとどく対応が早くなる(生活意識の変化)
- ◇首都圏勤務者の週末ハウスをつくる(生活意識の変化)
- ◇自然の豊かさと都市の利便さをあわせもつスローライフスタイルのアピール(生活意識の変化)

強み:大谷地区・大谷石というユニークな資産

- ◇緑豊かな郊外に環境共生型住宅を増やす(空家の再利用)(循環型社会)
- ◇自然を生かした教育へ(行政役割変化)
- ◇風水害対策費等の軽減(高齢者の貢献)
- ◇自然に恵まれた高齢者のゆとりある日常(高齢者の貢献)
- ◇恵まれた環境を後世に伝える調和のとれた町並みになる(景観意識)

強み:大谷地区・大谷石というユニークな資産

- ◇大宅石をキーワードにした都市間連携(行政役割変化)
- ◇住み続ける地域へのこだわり(景観意識)(生活意識の変化)
- ◇大谷地区を石と歴史の文化財学が多くのの人によく知ってもらおう(景観意識)
- ◇個性ある街の実現(中心街回帰)
- ◇大谷在住の意固地、勝手さが変化する(中心街回帰)
- ◇地域への帰属意識の高まり(生活意識の変化)

強み:自動車道路の整備が良好

- ◇上下水道、道路と緑を守り高齢化、少子化、住環境がよくなる(循環型社会)
- ◇環境共生型の住宅(循環型社会)
- ◇首都圏のビバリーヒルズをつくる

<自動車道路>

- ◇広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

<全体>

- ◇環状線沿いはファッション性の高い看板を集め、特色ある車窓景観を作り出す(景観意識)
- ◇歩いて暮らせる中心街と郊外部を機能的な公共交通網でネットワーク(中心街回帰)

### 弱み×脅威

弱み:公共交通ネットワークが弱い

- ◇バス停・電停に大谷石をあしらう(宮らしさ)
- ◇既存インフラと駅と狭範囲のアピール(ストック増大)
- ◇要所にある空き店舗などを更地化しパーク&ライド(ストック増大)
- ◇バス停・電停の前の空きストックをカフェに(ストック増大)
- ◇渋滞する道路の整備をし歩道、自転車の整える中心部のスリム化、弱者が孤立する(ストック増大)

弱み:景観意識が低い

- ◇自然の豊かさと歴史・文化を多くの人に知らせ、街の誇りになるような必要性を高める(宮らしさ)
- ◇ストック=悪い、というイメージの払拭(ストック増大)
- ◇スラム化→リフォームによる住宅開発(ストック増大)
- ◇公園、街、川、新幹線の下がいつも汚いから早く徹底させる(社会不安)
- ◇市の誇りをアピールする(社会不安)

弱み:まちづくり統括機関がない

- ◇街づくりの市民憲法をつくる(宮らしさ)
- ◇地価基準、発掘&実例(ストック増大)
- ◇市民のボランティア活性化(公共施設維持不安)

弱み:市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない

- ◇まちの中に二荒山神社や城址公園がのぞめる公園をつくる(宮らしさ)
- ◇家賃補助等の枠拡大(ストック増大)
- ◇市街地の空ビルを民間開放する。
- ◇機関が弱体であると計画の推進が遅れ市民の協調性が薄れる(公共施設維持不安)
- ◇出張客などが多い建物のロビーにジャズを聴きながらカクテルが飲めるコーナー(公共施設維持不安)
- ◇街中の公共施設に生活必需品があるお店、集える場所(公共施設維持不安)

弱み:廃棄物量が減らない

- ◇廃棄物減量化のキャンペーン実施、罰則の強化、若い人の関心が低い(循環社会への阻害)
- ◇大型商業施設の空き店舗(放置)を防ぐためデポジット制導入(循環社会への阻害)
- ◇社会不安増大、ポイ捨てがさらに増えると悪い条例が増す(社会不安)
- ◇処分場の枯渇→大谷への再投入が始まる(社会不安)

<自動車道路>

- ◇広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

## (2) SWOT分析結果 (4)SWOTクロス分析結果

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

### 強み×脅威

強み:首都圏アクセスがよい

◇東京の影響を受けすぎない。宇都宮らしさを確立し、安易に「東京化」されないようにする(宮らしさの衰退)

強み:自然が豊富で風水害少ない(ストック増大)

強み:大谷地区・大谷石というユニークな資産

◇大谷石の廃材を積極的にリサイクル利用し、循環型社会を目指していく意識を高める(産業廃棄物の捨て場になっていたという負の遺産としてのシンボルを「循環型社会」のシンボルとしてプラス活用していく)(循環型社会)

◇宇都宮らしさを演出するシンボリックな素材として活用する(宮らしさの衰退)

◇市街地に残されている蔵など、大谷石の建造物を地域を代表する良好なストックとして生かしていく(ストック増大)

◇社会不安-すさんだ社会や、自分の住んでいる地域に関心がもてない人々へ、宇都宮のアイデンティティの意識付けの材料として活用する(社会不安)

強み:周辺部の良好な住環境

◇今後空家などが増加すると考えられる郊外の良好な住宅ストックをいかしていく。簡単に壊さない(ストック増大)

◇郊外に広がる豊かな自然環境とゆとりある住宅ストックを魅力的な住環境として再構築し、それを宇都宮ならではのアピールポイントとする(宮らしさの衰退)

◇高齢世帯、単身世帯が増大する地域における不安を緩和するため、地域のコミュニティ力をつけ、物理的な環境だけでない真に暮らしやすい住環境を作っていく(社会不安)

強み:自動車道路の整備が良好

◇車の運転ができない高齢者などの増大にあわせ、既存道路ストックを公共交通路として積極的に活用する。沿線の空き店舗も停留所周辺の整備と絡めて。パークアンドライドの可能性も検討。

### 弱み×機会

弱み:公共交通ネットワークが弱い

◇既存の道路ストックを生かす(ストック増大)

◇これから増大する高齢者が内に引きこもらず地域の社会資源として広く活躍できるような交通ネットワークを作る。(高齢者の貢献)

◇中心市街地で高齢者が車を使わなくても暮らしやすいような公共交通整備(高齢者の貢献)

◇便利さだけではない車を使わないライフスタイル、「スローライフ」「エコな暮らし」を選択できるような街にする

弱み:景観意識が低い

◇(景観文化意識が高まっている)この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる

◇中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり

<まちづくりを統括する機関>

弱み:市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない

◇(景観文化意識が高まっている)この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる

◇中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり

弱み:廃棄物量が減らない

◇政策はあるが、個人レベルへの浸透

◇担当者が変わってしまう。腰を据えてやらなければならない。

### まとめ

- ・公共交通ネットワークの充実
- ・住環境(都心も郊外も)の整備とコミュニティづくり 大谷石の活用も
- ・廃棄物・個人レベルへの浸透
- ・まちづくり統括機関をつくる